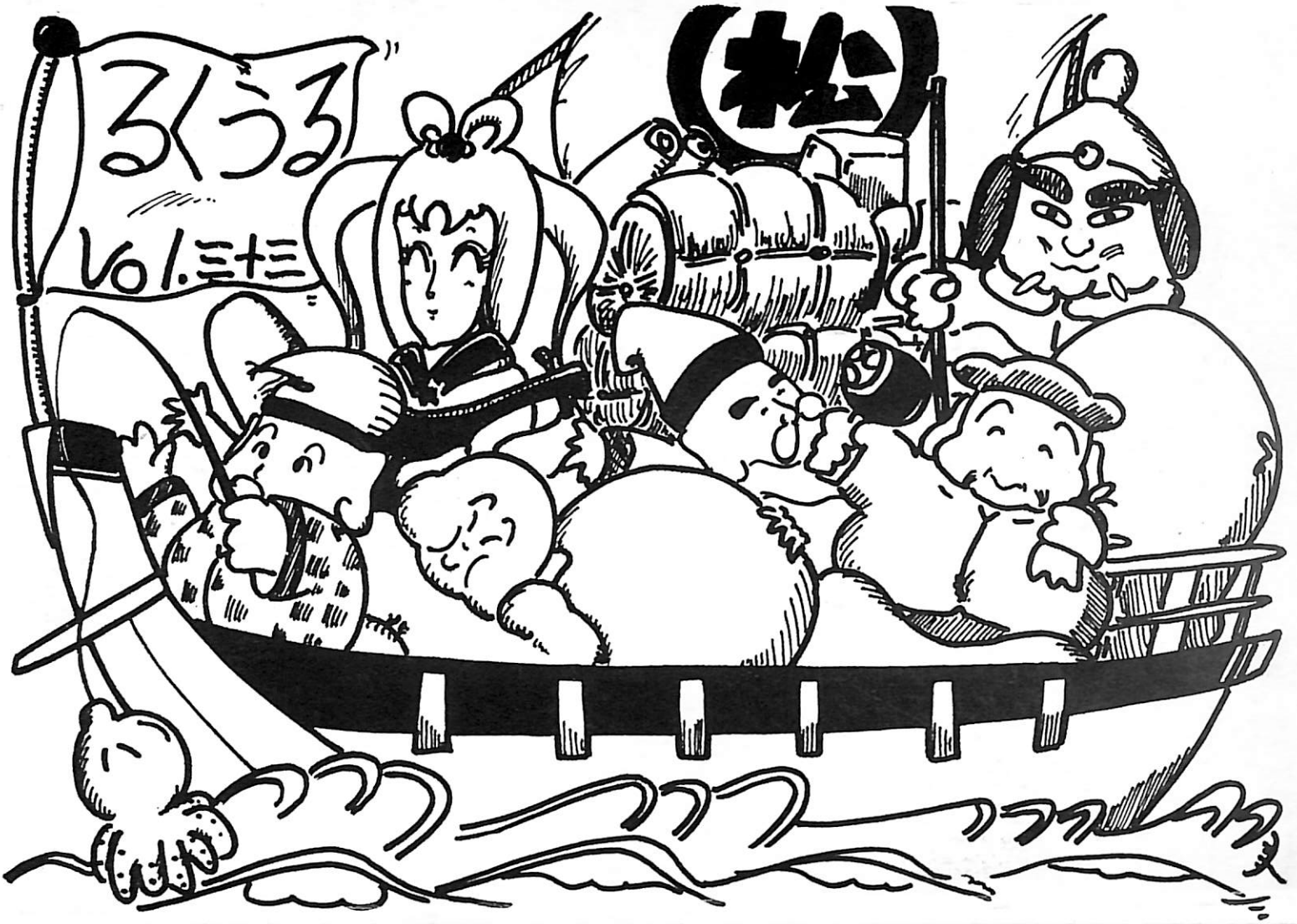

ろくうろ
Vol.三十三
松

es $50 Million Against Time

Ariel Sharon

issues—that the Time report was defamatory and that it was false.

But it threw the case out Thursday. After 48 hours of deliberation on the issue, the jurors found that neither Time nor its reporters had rushed to publish a report they either thought to be false or doubted.

But in an unusual move, the jury publicly chastised Time journalists, especially its Jerusalem correspondent, David Halevy.

In a firm but low voice, jury foreman Richard Zug read into the court record a statement saying that "certain Time employes, particularly correspondent David Halevy, acted negligently and carelessly in reporting and verifying" the information in a 113-word paragraph that led to Sharon's suit.

In that paragraph, Time alleged that Sharon had discussed the need for revenge with the family of assassinated Lebanese President-elect Bashir Gemayel two days before massacres at the Sabra and Shatilla refugee camps in Beirut in September 1982. More than 500 people were killed

An X-ray examination of Jean-Francois Millet's famous work, shi Prefectural Art Museum officials has revealed that Millet The original canvas (right) contained a picture done with hea

Secondhand Canvas Used for M

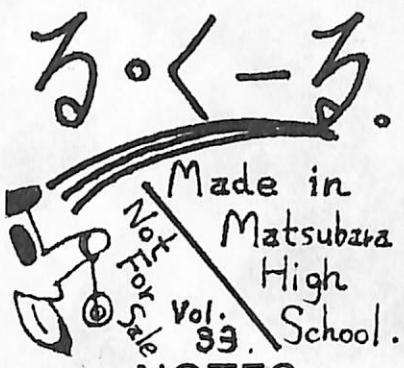
The 19th-century French painter of peasants, Jean-Francois Millet, was so poor he painted his famous work "The Sower" over a used canvas, according to Yamanashi Prefectural Art Museum officials who recently conducted X-ray examinations.

There are two existing oil paintings of "The Sower" by Millet, one in the Boston Museum of Fine Arts and the other in the art museum in Kofu.

X-ray examinations of the painting in Japan revealed that Millet had taken a used canvas to make a second oil copy of "The Sower." The original canvas contained a picture painted in heavy oils of a person's head and torso, similar to another Millet painting found in the museum in Boston.

In the lower left section, the examination also showed evidence of a cross, an unlikely object for the "peasant subject" painter.

The Millet painting in the



:le [lə] 定冠詞 (女性単数 *la* [la], 複数 *les* [le]) (英 the) 〖le, la は母音字又は無音の h の前で l' となる. 例: *l'*arbre, *l'*humanité. le, les は前置詞 à, de と縮約されて *au, aux; du, des* となる〗.

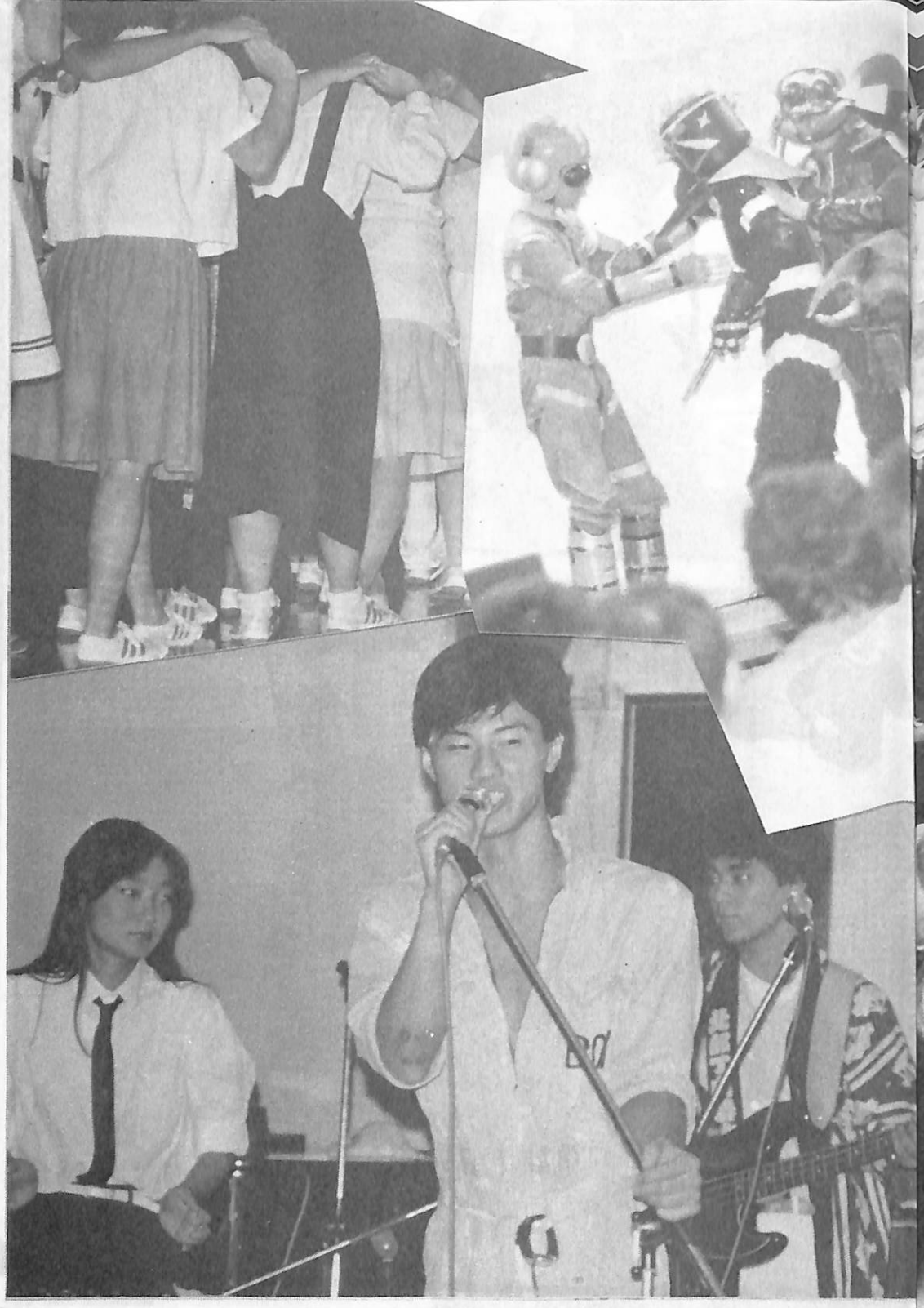
I 〖特定の名詞を限定する場合〗 ❶ 〖周知のもの, 唯一のものの前〗—*le* soleil 太陽. *la* lune 月. *le* Sauveur 救世主. ❷ 〖周囲の事情などによる明瞭な物や事実〗—Ouvrez *la* fenêtre. (その窓を開けなさい. fumer *la* pipe パイプをふかす. Va chez *l'*épicier. (いつもの)乾物屋へお行き. *le* premier dimanche du mois 月の第1日曜日. ❸ 〖身体の部分, 精神の働きなどを表す名詞の前. 所有の観念を含む〗—avoir mal à *la* tête 頭が痛む. Je me lave *les* mains. 私は手を洗う. Cette idée m'a traversé *l'*esprit. この考えが私の頭をよぎった. ❹ 〖補語又は従節によって限定された語の前〗—*les* livres de mon père 私の父の本. C'est *l'*écrivain dont je vous ai parlé. あれが私がお話しした作家です. ❺ 〖感嘆〗—*L'*ingrat! この恩知らずめ Oh! *la* belle fille. まあ, なんてきれいな娘だ. →quel. ❻ ごとに, ...につき—deux fois *la* semaine 週に2回. Il vient le dimanche [*les* dimanches]. 彼は日曜日ごとにやって来る. (→chaque, dimanche). un

cœur [kœ:r] (英 heart) 男 ❶ (*a*) 心臓. Le ～ bat régulièrement. 心臓は規則正しく鼓動している. Elle a le ～ qui palpite de peur. 彼女の胸は恐怖で高鳴る. avoir une maladie de ～ 心臓が悪い. (*b*) 胸. Il la serra passionnément sur son ～. 彼は彼女を激しく胸に抱き締めた. →poitrine. Mal.—avoir mal au ～ 胸がむかつく. Son dîner lui est resté sur le ～. 夕食が胃に(女)の胃にもたれていた. →estomac.

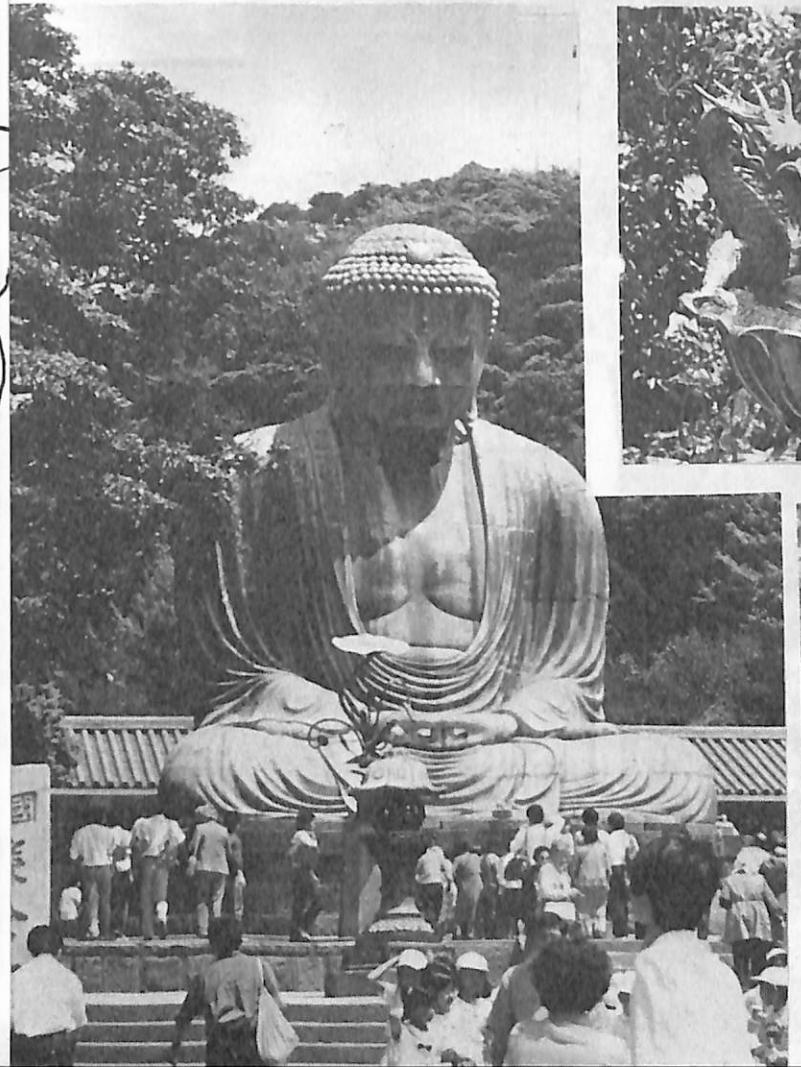
❷ 心, 胸, 気持(の持主). (*a*) 〖感受性・優しい思いやり〗—avoir le ～ sensible 感受性が強い心をしている. avoir bon ～ 優しい心の持主である. toucher le ～ 心を動かす, 感動させる. attendrir le ～ de *qn* (人)の心を和らげる(ほろりとさせる). avoir un ～ d'or 黄金のような心の持主だ, とても優しい(寛大だ). C'est un ～ de pierre [sec]. あれは思いやりのない(心の冷たい)人だ. ～ de pierre 石のように無情な心(の持主). attirer les ～s 人を引付ける. (*b*) 〖愛情〗—～ d'une mère 母性愛. donner son ～ à *qn* (人)の心(愛情)を捧げる. gagner le ～ de *qn* (人)の心(愛)を得る. ～ fidèle 貞淑な心, 忠実な心. affaire de ～ 恋愛(事件), 情事. peine de ～ 愛の苦しみ. courrier du ～ (新聞・雑誌の)身上相談欄. (*c*) 〖感情表現〗—avoir un ～ gai [triste] 陽気な(悲しい)気持だ. avoir le ～ léger [gros] 心が軽い, 心配がない(悲しみで胸がふさがっている). ～ plein d'angoisse 苦しみで一杯の心. (*d*) 〖良心・本心〗—～ candide 無邪気な気持(の持主). noirceur du ～ 腹黒さ. ouvrir son ～ à *qn* (人)に心を打明ける. vider son ～ à *qn* (人)に心(の重荷)を打明ける. au fond du ～ 心の底で. cri du ～ 本心の叫び. C'est un noble ～. あの人は高貴な魂の持主だ. (*e*) 心情.—〈Le ～ a ses raisons que la raison ne connaît point〉 (Pascal). 「心情には理性には分からない行動の理がある.」

❸ (熱意, やる気, 気分) 〖文〗 勇気.—avoir [mettre] du ～ à l'ouvrage 仕事に気を入れる(精を出す). Je n'ai de ～ à rien. 私は何事に対しても気分が乗らない. Le ～ lui manqua. 彼(女)は気がくじけた (→courage). C'est un ～ de fer. あれは鉄のごとき不屈の人だ.

❹ 中心, 核心.—～ d'un chou [d'une s



bus イラスト -1-
写真 -2-
目次 -3-
校長先生 -8-
生徒会長
FREE -77-
芸術行 鑑賞
編集後記 -80-
アンケート特集 -9-
遠足 -70-
修学旅行 -73-
教師今昔物語 -41-
輝松祭
Le Coeur 次号予告!
行事報告 -64-
クラス紹介 -45-
体育祭 -65-



「絹の道」を訪ねて

学校長　銀林重信

私が初めて「絹の道」を訪れたのは、晩秋のある休日であった。時雨（しぐれ）が静かに落葉をぬらし、木枯に時折、落葉がささやいていた。小径の両側からおおいかぶさるように、楢・櫟・朴・欅・ななかまどが繁り、紅や黄に彩られ、どんぐりが気ままにころがっていた。

時雨来てどこまで光る絹の道

八王子と横浜を結ぶ生糸貿易の舞台であった〈鑓水〉（やりみず）は、日本のシルクロードといわれた「絹の道」として知られている。

幕末から明治初期にかけ、輸出のため長野・山梨から八王子を経て、横浜港へ絹や生糸を運んだ道である。現在、国鉄横浜線橋本駅に向かう国道16号線沿いにその一部が残っている。八王子片倉城趾の坂を下り踏切りを渡ると、左手の谷間に湯殿川が静かに流れ御殿峠となり、峠下が鑓水である。小川の橋を渡ると北側が畑で、往時、絹の荷をのせた馬車や生糸商人が往来し賑わった部落である。

この村はもともと桑の栽培や機織りなどで細々と生計を営む寒村であった。安政六年（一八九五年）横浜開港とともに、生糸の出荷の集散地として栄え、大塚宗平・五郎吉をはじめ、多くの富を築いた鑓水商人が生まれた。

当時は、螺旋階段・洋風窓の異人館が建ち、そこで商人たちが、貿易顧問として外人を接待した。また、農民たちは生け花・俳句・常磐津に興じたり、庭先に窯をつくり、陶芸が盛んであったといわれる。

しかし、明治中期に、生糸相場の変動で鑓水商人は束の間の栄華の夢もはかなく没落していった。今も「東京通り」「ハマ街道」と呼ばれる街道名がその名残りを留めている。

当時は茅葺きであった民家の一軒「小泉屋敷」が保存されている。鶏頭が燃えるように立っているある農家の老婆に尋ねたら、当家は絹の道がにぎわった頃、饅頭を売っていた茶屋であったという。商人や農民たちが、ひと汗かいて茶屋のまんじゅうを食べたという面影を偲び、一面の芒原を抜けて、絹の道の祭神「道了堂」に入る。苔むした石段の前に石碑「絹の道」が立っていた。道了さまといわれるお社は、今は見る影もなく雑木林の中に廃屋となっていた。堂脇に足の欠けた地蔵さまに地柿が一つ供えてあった。

御堂は、小田原大雄山最乗寺の道了権限を分霊したもので、もと浅草花川戸にあったものを移したといわれる。

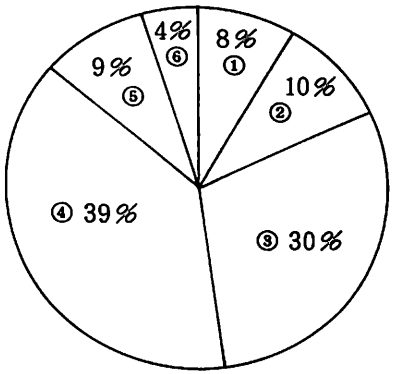
紅葉していづこへ旅す絹の神

14年前に鑓水に移転した多摩美術大学では地下三〇〇米の井戸水を使っているという。竹槍を突き刺すようにして地下水をくみ出した事から「やり水」の名が生まれた。

道了堂を右へ辿ると突然多摩ニュータウンが眼下に広がり道が途絶えた。

絹の道曲れば穂絮（ほわた）うしろより

Q 1 授業内容



① 大変わかりやすく教えてくれ理解しやすい
② 授業の進み具合が速すぎてとても追いつけない
③ 先生一人が納得して次へ進んでしまう
④ 特別良いとも悪いとも思わない
⑤ 授業中は寝てるか内職をしているのでわからない
⑥ その他

①の8％の人はエライ人だなァーと思います。全ての授業にこういう意見ならば、きっとその人達は来る学校をまちがえたんではないですか？

⑤に9％も集まりましたが、まずＪＯＤＡＮで印をつけた人が多いと思いますが、真面目に印をつけた人も、ちらほらいるんではないですか？

④に40％近くも集まったのですが、それは、寝ていてなんとも思わないのか、本当にそう思うのか、わかりませんですね。

さて、②と③ですが、結局、この二つは同じことを意味しているのですが、それが、40％というのはヤバイのではないですか？　もう少し授業中に、生徒と交流をもって集めてほしいと思います。先生方はどうお思いですか？

あれ、⑥の「その他」とはなんですかねェ。

Q 松高で一番好きな先生は？

これは、今回のアンケートにおける一番のやまである。ルクールを読まない人も、この記事には目を通してくれるだろう、という気もするし……、とにかく〝やま〟なのである。

しかし、これは大きな問題をかかえていた。一時期は、のせるのをやめようとしたこともあった。その問題点とは、

『好き・嫌い』

と、いう表現であった。ある教師からは、はっきりと「こういうのはマズイよ。」と、言われた。アンケートをとった時点で、僕達もそのことには気付いていた。でも、ここではあえて発表する。〝好き〟という形をもちいて……。質問を変えることはできない。変えるなら、出さない。この質問は〝やま〟だから出すんだ！　しかし、「嫌いな教師」の発表と票数の発表はやめておく。

次のページは、
佐野先生インタビュー／

松高生がえらんだ 好きな教師 BEST 10

1位	佐野　孝志	（数学科）
2位	岡野美千子	（国語科）
3位	上條　明弘	（生物科）
4位	宗内　昭春	（数学科）
5位	橋本　雄司	（体育科）
6位	樋口　正三	（体育科）
6位	赤羽　隆司	（化学科）
6位	橋本　謙治	（国語科）
9位	赤尾　治巳	（国語科）
9位	磯貝　敏子	（社会科）
（次点）		
11位	寺本　正誼	（体育科）
11位	横山　早苗	（音楽科）

パンパカパ〜〜ン！

では、第一位になった佐野先生のインタビューです。なおこのインタビューは、12月20日、サッカー部の試合（Vs都目黒）中、グランドで行なわれました。

Q　一位になった感想を？

「はずかしいですねー。」

ひたすら照れる。

Q　なぜ、一位になったと思いますか？

「ウ――ン。（ちょっと悩む。）

まあ、あんまり、おこらないからじゃないの?!」

うん、おもわず納得。

しかし、ここで質問がとぎれてしまった。

しばし、ちんもく。

そ、そのとき突然♬ジャーン！

Q　ひげはいつ、そるんですか？

「ひげ？　（へんな質問であきれた様子。）

まあ、今年中にはそるんじゃないの。スキーへ行って、ひげにツララができちゃって、もう大変で……、もう……。」

その間もサッカーに夢中になっていて声援。

「ナイス！　シュート。」

ブツブツ……。

そこで思いついたように

Q　先生、今、サッカーはやってないんですか。

「うん、今はやってない。色々とおさそいはかかるんだけど、忙しくってね。それでも夏前までは、やってたよ。今、いちおう渋谷の二部リーグに所属してるんだよ。」

二部リーグにばくしょうするとすぐ、

「渋谷は四リーグまであるんだよ。それに昔は府中リーグで優勝したんだよ。」

フン・フン

「それから、高校の時はラグビーもやっていたね。あの頃は、冬はサッカー・ラグビー・柔道だけだったね。雪の降る中、ラインも見えない所でラグビーやったりして……。

え、サッカー？　サッカーは大学の友達同士でやってたんだ。その頃は小金井リーグで常に優勝。そして、さんたまリーグに出て二回戦で調布に負けるのくり返し。」

この時、松高シュートのチャンスをのがす。するとすかさず佐野先生、大声で

「おしい、おしい。」

「それでラグビーなんだけど、授業でやるのね。それで、その教師が30すぎで、すごい、いやなやつなの。あだ名が〝東京ボンタ〟（？）っていうんだけど……。本当にそいつがなまいきだからラグビーの時おもいっきりタックルしていったんだ。うん、おもしろかったよ。本当に。」

こ、ここで松高一点を入れる。すかさず、

「ナイスシュート、吉原。」

しかし、すぐさま同点にされると、

「アーア。（ため息交りに。）」

Q　ワンゲルは、この休みどっか行くんですか？

「ワンゲル？　ワンゲルでは、どこにも行かない。え、冬山？

冬山は、昔、他校で死者が出たので都で行くことを禁止している。」

Q　先生が生徒だったら、どんな教師が好きですか？

「う〜ん、おもしろい人だな〜あ。」

Q　では、ラストに生徒に何を望みますか？

「もっと身のまわりのことに興味をもち、知的好奇心をやしなってほしいね。数学以外でもいいから、そういうものを持って、実際に行動してほしいですね。」

第一位に輝いた

佐野先生

でした。

●12月20日、佐野先生の一位について、二位の岡野先生、三位の上條先生から一言いただきました。

では、岡野先生から言ってみよう！

「一位の佐野さん？

まあ、佐野先生は、松高生みんなのアイドルだもんね。当然でしょう。」

と、いうことでした。

つづいて、上條先生！

（一位になれなくてくやしいと、言った後）

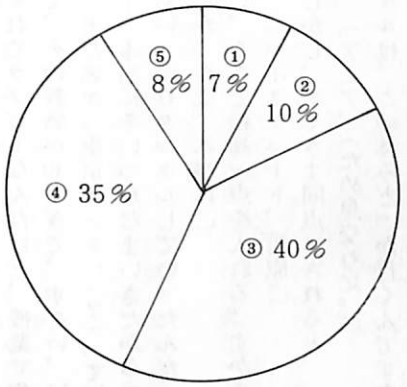
「佐野先生の一位ですか〜〜？

うん、佐野先生の一位は、順当なところでしょう。え〜。うん。そう思います。」

と、いうことでした。

ちなみに、四位の宗内先生は、好き・嫌いで区別するということがいやなんだそうなので、感想をいただけませんでした。アシカラズ……。

Q2 一日の睡眠時間は？



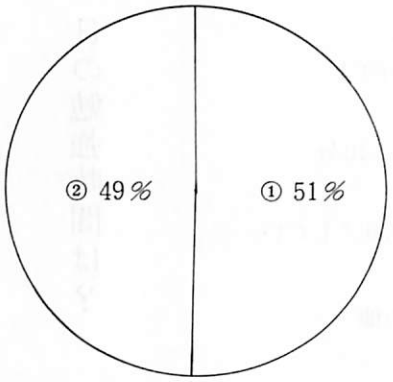
① 5時間以下
② 5～6時間
③ 6～7時間
④ 7～8時間
⑤ その他

この結果からだいたい6～8時間は睡眠をとっている。高校生としては、適当なところだと思います。

睡眠時間は、気にしてない人も多いと思いますが、これはとても重要なことだと思います。睡眠ということは、その日のつかれをいやし、次の日の活力をつくりだすものだと思います。

三年生だとしても、体をこわさないでいてい度は、寝る必要があるし、二年、一年でも充実する学校生活ができるだけの睡眠はしなければならないと思う。寝ていなければ、その分授業で寝るということになってしまうと思います。それをばん回するために、時間をかけて勉強する。またねる時間が少なくなる。これを続ければ体もこわし、勉強もおろそかになってしまう。こういう悪じゅんかんにならないためには睡眠は重要なものだと思います。

Q3 あなたは今、ゼミor通信教育をうけていますか？



① YES
② NO

結果としてほとんど半分半分となったが学年ごとに見ていくと、やはり3年生は、ゼミなどに通っている人は半分以上で、逆に一年生は何もしていないという人が多いようでした。

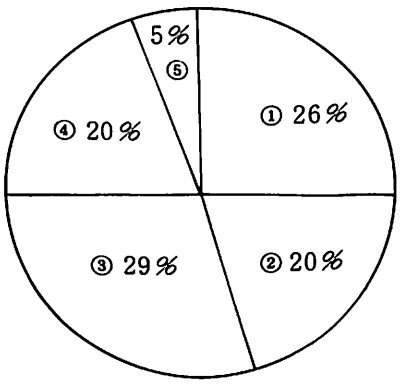
うけている人の意見としては、
- 学校ではできない部分をおぎなう。
- うけないと不安
- 受験のため

うけてない人の意見としては
- 時間のむだ
- クラブなどで時間がない
- めんどくさい

などです。

もちろん受験対策ということもあるけれど、とりあえずは、一年のときから学校の授業をきちんとしていれば、後で、あわてることもないということでした。「ペコリ！」

Q4 一日の勉強時間は？



① 30分以下
② 30～60分
③ 60～120分
④ ぜんぜんしない
⑤ その他

「一日の勉強時間は？」

これは、このアンケートには、かかせない質問だ。でも、こういうデーターは、もう、とられているはずなんだよね。教科とかによって。

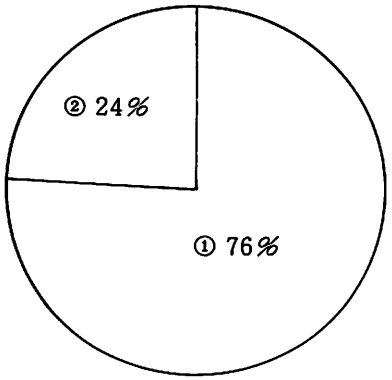
この結果を見て、僕はおもわずおどろいてしまった。自分の予想した結果とほぼ同じになってしまったのだ。唯一違っていたところといえば、⑤がもうちょっと多いのではないかと思ってたのだが。やはり、3年生は、受験ということもあるし。しかし、ここまで似てくるとこわい。うん、これでニアピン賞はもらった。（なんのこった。）

しかしたがら、この結果は誰にでも予想がついたであろう。この学校、松高のイメージとして出てくる一日の勉強時間は、この程度だから。この結果は、まさに松高である。さすがである。

でも、現実を考えてみると、受験という怪物に立ち向かうためには、最低3時間は勉強しなければいけないらしいし、大人になって悔やまないためにも、それぐらいはやらなければいけないと思う。

しかし、寝たい、食いたい、遊びたいというこの時分に3時間という時間をつくるのは大変である。それなら、遊びを減らせと、先生方、大人達は言うけれど、そんなふうにしたら遊べなかったことで、将来悔やんでしまうだろう。「よく学び　よく遊べ」ということわざ通りにいくのが理想だが、そうもならないから、大変である。

Q5 自分の部屋（個室）を持っていますか？



① YES
② NO

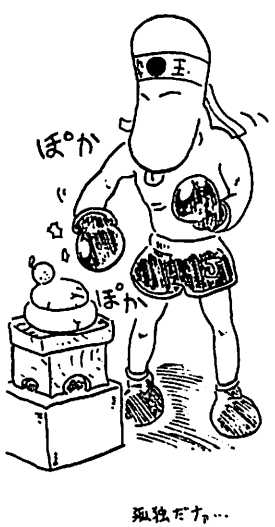
自分の部屋を持っているということは、イコールめぐまれた家庭の子供であると思う。

松原高校の中の4分の3が、自分の部屋を持っている。これからもわかるように、勉強をするにはもってこいの環境の人が多いということであるだろう。雑音もなく、一人静かに勉強をする。これこそ、若人の喜びがあるのではないだろうか。

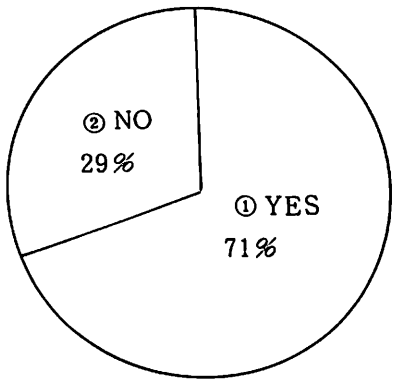
しかし、4分の1の学生諸君は、自分の部屋をもてず、テレビの音、弟や妹の遊び声、などなどたくさんの公害があり、学生にとっていい条件ではない。しかし、こういう条件であるからこそ勉学にいそしめるということもなきにしもあらずではないだろうか。

自分は、この結果をみて、今の世の中、ほとんどは、自分の部屋をもっている。これが、親子の断絶、家庭内暴力などをまきおこす原因になっているのではないでしょうか。

自分の部屋を持っている人は、なるべく、自分の部屋から出て親子のスキンシップをしたらと思います。



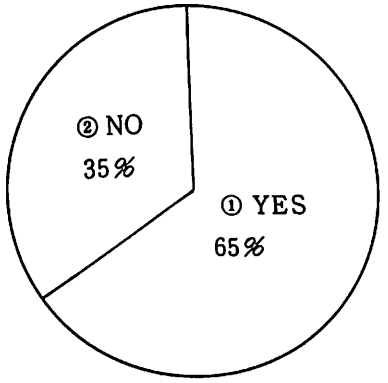
Q6 今、クラブ（同好会）に入っていますか？



① YES

② NO

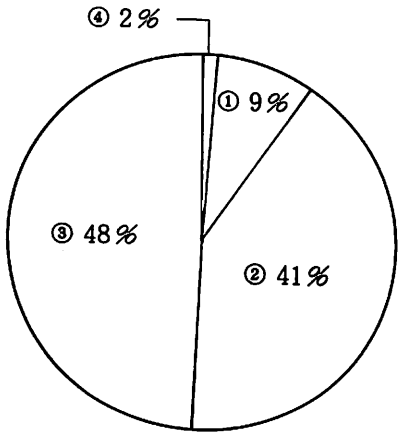
Q6 Q4でYESの人、クラブをENJOYしていますか？



① YES

② NO

Q7 月のお小遣いは？



① 3,000円以下

② 3,000円～5,000円以下

③ 5,000円～10,000円以下

④ その他

☆④のその他（2％）中の50％位は，なんと"なし"なのである。エライナー！

Q7 で、主に何に使いますか？

えっとー、まずは、男子からいきましょう。最初はベスト・スリーの発表です。

第三位　飲食代
第二位　ＢＯＯＫ
第一位　しゅみ

あたりまえですねー、つまらないですねーと、いうことで以下にユニークなアンサーを。

『生活費』、『競艇』、『ウヒヒヒヒ……。』

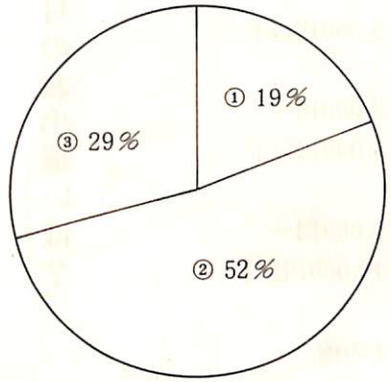
ハハ……、ユニークでもなんでもないですね～。バカバカシクなってきましたよ！

さて、お次は女子。もち、ベスト・スリーから。

第三位　飲食代
第二位　ＢＯＯＫ
第一位　ふく

アハ、アヘ、アハ、また、あたりまえですよね――。ユニークとはいえないけど、『学用品』と、答えていた子がいました。尊敬にあたいしまっせ、これは……。それから『おとこ』をかう』だと。まじめに書けよ！　このやろう。しかしながら、『ためる』、『預金』というのが多かったのには、おどろきました。異外に"計画性"があるんですね！　やっぱり……。それから、女子の実際のNo.1は、『色々』だったんですが、これははぶかせてもらいました。あしからず……。

Q8 今、アルバイトをしていますか？



① している。

② 以前はしていたが、今はしていない

③ したことがない

Q「今、アルバイトをしていますか？」の結果以前の問題に、学校ではアルバイトを一応禁止しています。一応とは、申し出をして許可が得られればよいのですが、正統な理由がなければおりません。しかし上の結果を見ますと、約三分の二の生徒がアルバイトを経験しているのです。学校にアルバイトの理由がいえない人が多いのだと思います。しかし、アルバイトをすることは社会勉強を体験してくるわけですし、親にねだらず自分の欲しい物を自分の力で買うわけですから、私たちにとってはこの結果はいってみればしょうがないものだと思うのです。しかし、学校側も私たちのためを思っての「アルバイト禁止」なのです。上の問いかけにかかわらず、今後アルバイトについては、私たちにとって重要なものであるので、なんとか胸をはってできるように道をひらいていく方向に進んでほしいものです。

Q「月のお小遣いは？」

な、なんと！　五千円以上もらっている人が半数近くいるとは……。なーんてⓔの私の単なるひがみですけど。使い道をみると、なかなか多様でやりくりに大変なようです。そしてどうしても欲しい物があると、小遣いだけではどうしようもなくなり、前のQにからんでアルバイトをするということになってしまうのかもしれません。

Q7 一日の中で何をしている時が一番楽しいですか

まず、いきなりベスト・スリーの発表からいきたいと、思う。（男女別）

まずは、男子。

第3位　「遊んでる時」
第2位　「食べてる時」
第1位　「寝てる時」

お次は、女子。

第3位　「おしゃべりしてる時」
第2位　「食べてる時」
第1位　「寝てる時」

さて、男女共に第1位、第2位の変化はなかったわけだが、ここで問題としたいのは〝寝る〟という行為が本当に楽しいことか、ということである。「遊んでる時」、「おしゃべりしてる時」は、もちろん、「食べてる時」だって自分の嫌いなものでなければ、それは、楽しい一時であろう。では「寝てる時」は？　となると、これは、難しい。例えば、こんな解答があった「寝る瞬間が好き」という……。これなら、話しは分かる。あの自然に瞼が閉じていく時の、〝フワッ〟とした状態。たまらないな～。しかし、これが「寝ている時」となると話しは別である。少なくとも人間は、寝ている間は〝思考力〟がゼロである。（夢は除く）。だから〝楽しい〟なんて思うわけがないのだ。それに、ゴロゴロと転がりながら寝てる人、多量の汗をかいて寝てる人等には、苦痛さえ感じる。僕はある人から、「人間は寝ている時が一番楽そうに見えるけど、実際は、一番つらいことなんだぞ！」と、いわれたことがある。よくよく考えてみると、〝ハハーン〟という具合になった。そして、その時以来、僕の考えはさっきのように変った。それ以前は僕も「寝る＝楽しい」という考えであった。イビキをかいて寝ている人を見ると「あァ、いいなァー。」と、思っていた。でも、寝るという作業はその日のつかれをいやすのが目的なんだから、という考えをさっきの発言から見いだし、変わった。みんなは寝てる人を見て〝楽しい〟といってるんだろうけど、それを自分の立場にもっていったら、ちょっと分からないと、思うんだが……。（そうは思わないだろうなァ～。きっと……。）

さて「寝てる時」という話題からはそれて、他の気付いた点をあげたいと思う。

まず第一に、俗に趣味は？と、聞かれた時に必ず上位に顔を出す「音楽鑑賞」、「読書」に、全然と言っていいほど票が集まらなかったこと。

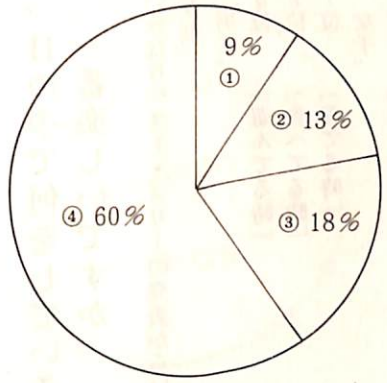
第二に、「勉強している時」という解答が、けっこう票を集めたということ。

そして第三に、あまりにもまともな解答ばかりであった、ということ。

まァ、こんなところでした。

Q10

休日はどの様に過ごしているか。



① 買い物

② デート

③ 家で寝てる

④ 余計なお世話

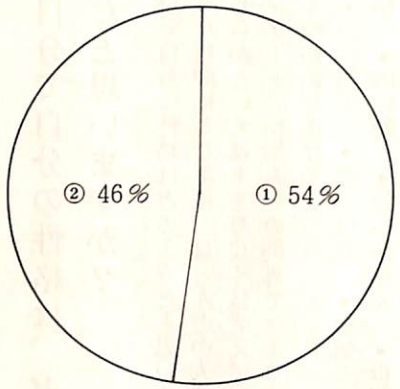
休日、これは、学生にとって週に1回の朝寝坊の出来る日（現在はそうでもないが）その休日をどれだけ有効につかうか。これは、自分達にとって大問題である。

この結果を見ると、余計なお世話は別として、家で寝ているというのが一番多い。これは何を意味しているか。1週間のつかれをいやす、これもいいだろう、しかし、我々は、高校生という若人である。1日のつかれなど1晩寝れば明日ははれやか、すがすがしい1日をすごせるだろう。やはりこういう時は、10時におきて勉強、これではないだろうか。

デート、買い物、これは、若い人々にとっては、楽しい楽しい1日になるだろう。しかし、こればかりではいけないと思う。デートの次の日曜日は、勉強、その次の日曜日は、買い物、こういうローテーションが、学生にとって最もよいものではないだろうか。

Q11

尊敬している人はいますか。



① YES

② NO

尊敬している人、これは、必ず一人でもいいから持ってほしいと思う。しかし、この学校では、46％もの人が尊敬している人がいない。これは、自分の将来に大きく影響すると思う。

尊敬している人がいれば、これは、自分のはげみにもなるし、その人を目標にできる。尊敬する人というのは、自分もその人のように生きたいということではないだろうか。

しかし、尊敬している人がいないということは、両親・先生までも尊敬できないということは、ろくな人間ではないということでしょう。

人を尊敬する、尊敬できる人がいる、これは、人間にとって重要なことではないでしょうか。

Q12　自分で自分の性格は、どのようだと思いますか？

――自分で自分の性格はどのようだと思いますか？――このような質問に対しては、ほとんどの人達が自分の性格を、どちらかといえばあまり良くは考えていないようで、今回のアンケートの結果もその例外ではありませんでした。

――いくつか例をあげると

•暗い　•自分勝手　•のんびり　•短気　•あきっぽい
•二重人格　•内向的　•いいかげん　•世間知らず

などなど、たくさんありました。

――また、変わったところでは

•バカ！　•分裂症　•ムッツリスケベ　•うるさい
•パンク　•ケチ　•じじむさい　•へんな顔　•コアラ

と、まあほとんど性格とは関係のない答もいくつかありました。また、例としてはあげなかったけれども自分の性格がよくわからないという人もたくさんいました。

今までは自分の性格を悪くとらえている人の答をあげてきましたが、中には自分ほど素敵な人間は他にいないという考えの人が各クラス5～6名ぐらいづついました。

――その例としては

•すばらしい　•カンペキ　•言うことなし　•世界一
•明るい性格　•良い性格　•明朗快活

というようなものでした。

松校生のイメージとしては、明るいけれどものんびりとしていて、どこかいいかげんだけれどもやる時はきちんとやる。というのが私の思う松校生のイメージだけれども、これは早い話がいろんな性格の人（正真正銘のマジメな人から、おもいっきりとんでる人）が集まったとても楽しい学校ということだったのです。（終わり方がクサかった。）

Q13　一つだけ望みがかなうとしたらどう使いますか？

集計してみると、ほんとに人それぞれでおもしろいですね。笑っている場合じゃないという現実派は……

卒業、今の生活からぬけ出す、する！、背をのばす、大学合格、体の悪いところをなおす、ひまになる、頭をよくする、家を買う、平和利用、

などです。中でも真剣なのが、卒業と大学合格、現実すぎるのが家を買うでしょうか。すばらしいと思ったのが平和利用。もし一つだけ望みがかなうなら、エチオピアの飢えた子供たちに、腹いっぱい食わしてあげたい……、美しいの一言です。

次に非現実派。そんなもんかなうわけネーだろ！

DAVID.Bのそばにいく、目から火を出せるようにする、他人に変身する、彼女を作る、時間を逆にすすませる、不老不死、宇宙帝王になる、透明人間になる、美しくなる、魔法使いになる、自分の年をとめる、などです。中でも美しくなる、なんてのは、不老不死と同じくらい無理なお話しだと思います。

次は欲ばり派。

一億円ひろう、百個ののぞみがかなうようにする、一一一〇〇万円ほしい、金持ち、自分の国がほしい、などです。中でもいやしいと思われるものは、百個ののぞみがかなうようにする、です。一つの望みを十倍にしようとした彼ら（二人）の根性が気にくわない、と思う人も多いと思います。たった一つのねがいをめぐまれない人々のために、という人もいるんですよ。ざんげしなさい！

といいながらも、人間の本根を見たような、みんな現実と戦っているのだと、痛感しずにはいられなくなってしまいました。

次は、番外編です。中にはわけのわからぬものもあります。一しょに考えましょう。

E組に行く、さあ？、別に、なし、愛を得る、てめーを殺す、死ぬまで生きる、なめる、

などです。いくら考えても理解しかねるのが、E組に行く、となめる、だと思います。前者ではいくらか想像できます。彼はE組でないこと、自分のクラスにあまりなじめなく、旧友のいるE組へ行きたい、ということでしょうか。しかし後者はほとんど、全く抽象的でどうにかすると、その人を少しおかしいのではないかと疑ってしまいます。

今まで「一つだけ望みがかなうとしたらどう使いますか。」を見てきましたが、「望み」ではなくむしろ「夢」であるものが多いように思われました。しかし中には、別に、なし、などさめた人もいるようでこのアンケートに答えてくれた人の言葉をかりていうならば、そんなのあるわけないから信用しない、なのかもしれません。

Q12 今、一番行きたい国はどこですか

BEST3は、次の順でした。一位スイス、二位フランス三位アメリカでした。上位三位は女性票が集まっていたみたいで、男性票はもうてんでばらばらで、集計もあったもんじゃなかった、というのが実情でした。

まあ、くだらない質問だったわけですが、ヨーロッパというのは女子にとってあこがれの地、というわけなのでしょうか。社会科のI先生曰く、「あと十年のうちに女の子はみんなヨーロッパへ行くんだから。ホントに行くのよ。」

それでは、某旅行会社のパンフレットを参考にさせてもらい、スイスのご紹介を……。

楽しく、嬉しい充実の旅をお約束します。

スイスの東の玄関チューリッヒは商業都市として発展してきた、スイス最大の都市。市の中心部を流れるリトマ河、美しいチューリッヒ湖、遠く東南に望むアルプスの白い峰々、森の緑に彩られた街は、まるで別天地のような雰囲気に包まれています。見どころとしては、スイス最大のロマネスク建築・大寺院や、リトマ河をはさんで対岸にあるフラウミュンスター寺院など。世界有数の観光都市ジュネーブは、街全体がまるで公園。もちろんレマン湖は見逃せないハイライトで、湖上に噴きあげるシンボルの大噴水や、白い峰々を遠望すれば、もうそれだけで満足感いっぱいです。スイス観光のハイライトは、ユングフラウヨッホ登頂でしょう。登山電車で草原やアイガー北壁の壮観を遠望しながら、長い長いトンネルの中をヨッホ駅へ。展望台からの大パノラマは、もう感動そのもの。その素晴らしさに呆然と立ちつくしそう……。

どうです、もう今すぐにでも行きたくなってしまったでしょう!? 私のイメージとしてスイスといったら、「アルプスの少女・ハイジ」しかないでしょう。山へ行ったら、おじいさんの山小屋をみつけて、もみの木さんとお話しをして来て下さい。さあみなさん、いっしょに歌いましょう！

口笛はなぜ、遠くまで聞えるの、あの雲はなぜ……

Q13 最近、やみつきになっていることは？

最近やみつきになっていること

よくもこんなくだらない質問を作ったものだと今になって後悔しているがもう遅い。答えてもらったいじょうは結果を発表してみようと思う。

結果は大きく分けて次の3つのタイプに分けることができた。

○その1　スポーツをしたり、音楽を聞いたりという、わりと一般的なタイプ

○その2　食べる、遊ぶ、寝るなどの、ふだんの日常生活について書いてあるタイプ

○その3　他人から見ると、ほとんど異常とも思えるような一人あそびについて書いてあるタイプ

まずその1の自分の趣味については、

- ピアノをひく
- ウィンドーショッピング
- ロックする
- バレーボール・サッカー
- 長でんわ

など、このタイプは、わりと女子の人達が多く男子はこの次のタイプがほとんどだった。

その2の例としては、

- おかしのバカ食い
- 早寝遅起き
- らくがき
- 一日中テレビを見る
- 不規則な生活

と、まあここでは、ろくな答えはありませんでした。何も言うこともないので次。

その3のタイプ

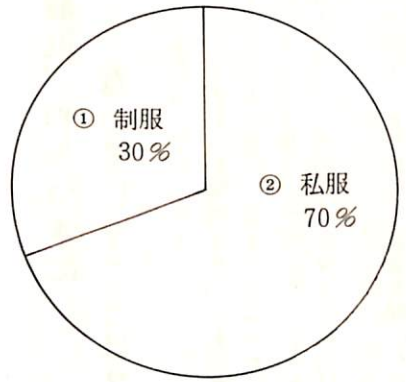
- かぜ薬飲んでボーッとする
- ウルトラセブンごっこ「シュワッチ！」
- 演歌をヒットメドレーで歌いまくる
- 夜中、ワラ人形に向かって「×××」と言いながら、くぎで打ちつける
- テレビに向かって話しかける
- かなしばりにかかる
- ハカイダー作裂！

まあ、ほとんど冗談だと思うけど中には薄気味悪いのもあって、ひょっとするとひょっとしたりして……。

では最後にこれ以外のものや意味のわからないものなどをいくつか。

- 自主休校
- あれ
- 余計なお世話（実はこれが一番多かった。）

Q16 制服と私服では、どちらが好きですか。



① 制服

② 私服

制服がいいという人が30％もいるのに、普段そんなに制服の人を見かけません。

やはり、私服の方が気楽でいいのでしょうか？

ろうかで、制服を着ていた人にききましたら、

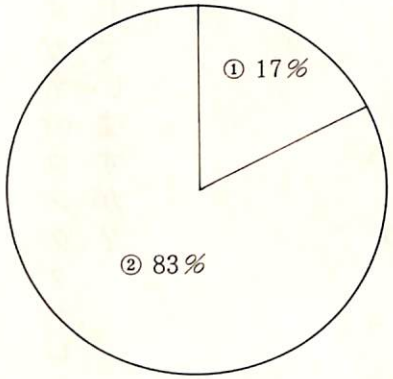
「制服の方が簡単に着れるからいいんだ。

私服にしたら、いろいろと金を使いそうだからね。その点では、女子が一番そう思っているんじゃないの？

まあ、結局は本人の考え次第だから、オレに質問してもムダだよ。」と、言いはなされてしまいました。

よく先生方が私服について、高校生らしい服装と言いますが、高校生らしい服装というのはやはり、制服ではないでしょうか？　皆さんどう思いますか？　オーッと時間がありません。この？のことについては、次の34号にのりますから、目を通して下さい。

Q17 自分は他人よりおしゃれだと思いますか。



① YES

② NO

「自分は他人よりおしゃれだと思いますか？」

これは、自由服の学校ならでわの質問である。

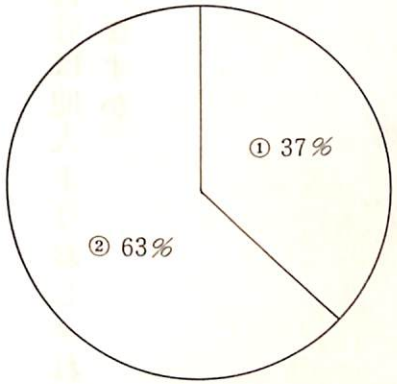
Q16で「自由服がいい。」と、言った人達がこの質問の主役となるんだから、制服派の30％を100％からひいた残りの70％中でＹＥＳと答えるのがなん％位になるかというのがこちらの求めたいところであった。だから、ここでは、自由服派の70％を100％として、ＹＥＳと答えた割合を出してみた。その結果は、

約24％

であった。

これは、すごく低いパーセンテージだと思う。単純に考えても、10人中2人～3人、4人中1人の人しか、「オー、オレ（私）は、なんておしゃれなんだ。」としか思ってないのだ。一般的に見たら、普通か、それよりもちょっと高いパーセンテージに当ると思うんだけど、この学校のイメージから見たらやっぱり低いと思う。個人的な予想では、最低ラインで30％とよんでいたから……。それにお金の使い方でも〝服〟と答えた人が多かったし……。でも私服を着る意義というのは、おしゃれができる以外として、とっている人も多いだろう。けれど、やっぱり低い結果だと思う。（ちなみに私もＮＯです。）

Q18 メガネorコンタクトレンズをしていますか？



「メガネorコンタクトレンズをしていますか？」

これは、とくに質問したからどうだというようなものではない。別に保健委員会のアンケートでもないんだから質問しなくてもよかったのだ。今になってそう感じている。

結果をみると、予想以上にＹＥＳと答えた人達が多く、そのことにおどろいている。僕の予想では、すくなくみつもっても20％、多くて30％であった。

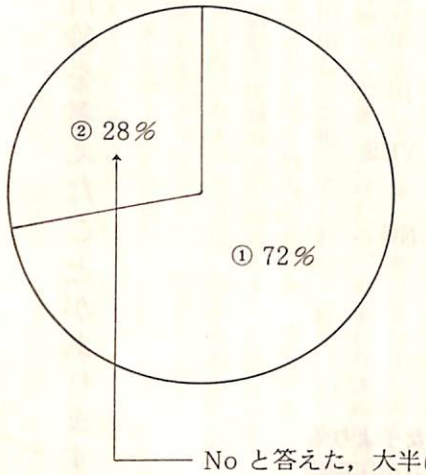
では、なぜ僕の予想とのズレが生じたのか、ということだが、これは僕がメガネをかけている人はわかってもコンタクトをはめている人は、わからなかったためであろう。

よく視力のいい人がファッションとしてメガネをかけたり、メガネをかけてる人をうらやましがったりしてるがメガネほど不便なものはない。コンタクトも同じである。

このアンケートで「もし自分の体で一つだけ直せるとしたら、どこを直すか？」と、いうのをとったが、その結果の上位に「目」というのがはいっている。これには、うなずける。目が悪いのって本当につらいんだから……。

しかし、このアンケートのこの質問の結果には、前にも書いたけれど、少々おどろいた。４割近くもの人達が視力が悪いんだから。メガネとコンタクトの割合はちょっとわからないが、ほぼ半々ではないか。

Q19 自分は健康だと思いますか？



「自分は健康だと思いますか？」

これは、質問の出し方が悪い。と、いうことはイコール出題者である我々が悪いということになる。

この質問の悪さは、健康の意味にあると思う。例えば、Ｍ君は、

「オレは今、かぜひいてるからなあ。」

と、いうことでＮＯに丸をしたかもしれない。

Ａ君は、

「オレの生活は不健康そのものだから……。」

と、いうことで、これまたＮＯに丸したかもだし、Ｊさんは、

「食欲もあるし、顔色もいいし、うん……。」

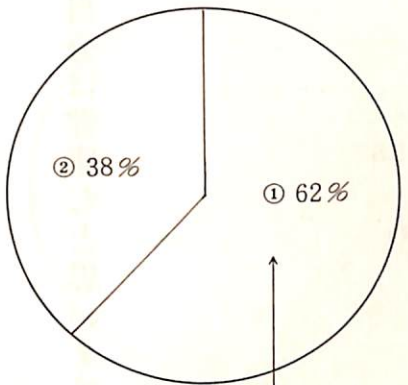
と、いうことで、ＹＥＳに丸したかもしれない。

しかしながら我々がここで求めた「健康」は、もちろん体のこともあるが、それ以上に精神的なものを求めていたのです。そして人間的なものも。

このアンケートにおける28％のＮＯと答えた人達は、体の面、それも今現在を見て答えたのだろう。又、ＹＥＳの人達も同じことだろう。もし、このアンケートのこの質問が精神的・人間的なものを第一として……と、なっていたら、この質問に対する答えは、きっと100％ＹＥＳとなっていただろうし、そうでなきゃならないのです。

これは不良な質問なので解答を検討できません。ゴメン。

Q20 自殺を考えたことがありますか。



意外なことに女子よりも男子の割合の方が圧倒的に高い

「自殺を考えたことがありますか？」

これは、あのアンケートの中では、すごくいてる質問だけど、ウン、とてもいい部類の質問であると思う。ただ、これ、もう一歩進めて、肉体的にいためつけられて死にたくなったのか、それとも精神的な面でか、と、いう所まで、やらなければいけなかったと思う。そうしないと検討ができないから。

ただ、個人的予想から言ってみれば、精神的な面のため、いう方が上であろう。ただ、本当に死んでしまおうと思うやつは、肉体的な面のためと、いうやつだろう。なぜかといえば、言葉で痛めつけられても、そういうことを言ったやつらに対し、その言葉を思い出しながら、なにくそ根性でがんばりぬき、ラストには逆の立場になると、いうこともある。（よく、青春映画であるパターンのやつだよ。）しかし、病気は、ただ、じっとたえるだけである。

ある人が、船旅で一週間はきつづけた時にこう思ったという。「精神的苦痛なんてちょっとがまんすればいいけど肉体的苦痛……、これには、たえられないから死のう」と。これは、うん、わかる。とにかく体験すれば、みんなわかるはずだ。この人は正しいことを言ってるんだと……。

でも、どんなことであれ死を考えた人は、いつでも死ねると思ったんだろうから、色んなことにふんぎりがついたはずだし、それによりおもいきりもついたはずだ。やっぱ、人間は死を考えるべきだろう。これは、絶対だ。

Q21 道を歩いていて百円拾いました。あなたはどう使いますか。

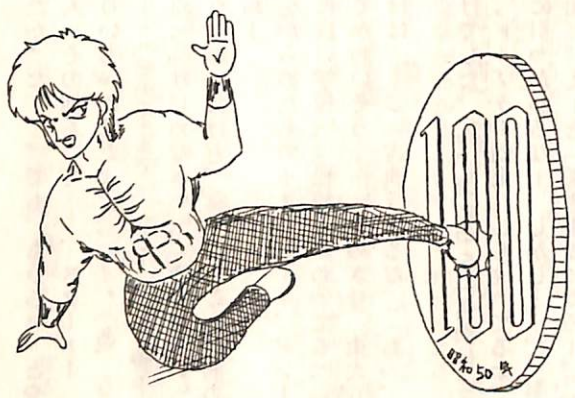
ある寒い日、人けのない道を歩いていると、銀色に光る百円玉をみかけた。彼はポケッとしていたので最初は何だかわからなかったが、次の一瞬にはあたりを見回していた。当然のことながら、「百円もうかった（多数）」と彼は思った。彼はこの百円をどうするのだろうか。「アイスを買うか、それともジュースにするか、いやいや寒いからパチンコにしようか、それともゲーセンにいくか。百円だから宝くじも買えるな。」と彼は拾おうと足もとを見ながらしゃがんで手を出すまでに、これだけのことを考えた。しかし百円にはまだ手を出していない。彼はまた少し考えた。

「昔、百円拾って交番とどけたら、おまわりさんは自分の財布から百円出して交換してくれたっけな。」「しかし高校生にこんなことをしてくれるだろうか。交番にとどけるくらいなら、駅前の街頭募金のおねえさんに寄付しようかな。しかしもったいないなあ。そうだ、森永のおかしを買ってあげよう。さしずめチョコレートってとこかな。」

彼はやっと考えがまとまり拾おうとしたとき、近くで見た百円はあまりにもきたなかった。彼はふと、「もしかしたら犬の〇〇〇がついているかもしれないぞ。そーだなあ、考えてみたら汚いんだな。」彼はやっとまとまった考えを忘れたのか、拾おうとしなかった。考えてみればたかが百円のことでなんでここまでなやまなくてはならないのか。

彼は、自分の判断力のないことに腹がたってきた。そのうち彼は自分の足もとにある、いかにも「僕はあんたのものだよ。」といっているような百円玉をけっとばし、その場を通りすぎていった。

注・百円もうかったと答えた人はほとんどであったので「多数」と入れました。



Q22　卒業にあたって（三年生）
学校・下級生に一言

で、「Soul Deep」でした。

そんでもって、三年生からたくさん（でも、ないか……）お言葉をいただいてるんでビシビシ発表しちゃいます。まずは、ベスト・スリーの発表〜〜！

第3位　「ばか」　（4人）
第2位　「がんばってね。」　（9人）
第1位　「勉強しろ！」　（11人）

まあ、こんなもんでしょう。うん、うん。

続いて、きついお言葉を。いきまっせ〜〜。

「もっと気をつかえ」、「なまいきだ！」、「うるさい！」、「ちゃんとあいさつをしろ！」。

ハア、ハア、ハア……。

まあ、このへんについては、「無視」をしちゃって、次へとまいろう。（あっ！　だから「なまいき」なんだ。）次は、「教訓」的なもの。〝カチン〟

「最後までエンジョイしろ！」、「今を生きろ」、「今しかできないことを存分にやれ」、「好きなことをやれ」、「高校生らしくなれ」。

こういうことを書く人って、いますね〜〜。寄せ書きに、〝努力〟なんてかいたりして……。でも、こういう言葉書く人って好きです。大好きです。一言のメインは、こういう言葉にしたかった……。でも、もうちょっとやわらかい表現にした人＋その他もいて……、スタート！

「遊んでばかりいちゃだめだよ。」〝ハイ〟（あ、うなずいてもうたが……）「そのままで」、「どーぞ、ご勝手に。」、「勝手に楽しめ」、「けじめなさい」、「遊びなさい」。

と、いうようなわけだけど、言ってることは前のと同じようなもんだね！

次は、松校をからめたもの＋α。ヨーイ、ドン！

「松校は本当に良い学校」、「松校はかわってる」、「こんな学校に入学してかわいそう……」、「めざせ　東大100人！」（むははははは……。）「古典はとるな。」（あっ、おれとっちゃった！）

と、いうわけでした。（今、頭の中を「古典はとるな。」という一言が〝ドップラー効果〟しちゃってるよ。マイッタナ〜〜。妙に引っかかるなー、しかし……。）おっと、ここで一言追加だ。えーと「図書委員になろー。」だって。

お次は、へんなのだよ。1、2、3、ハイ！

「どうぞ、私を理解して。」、「やっほー」、（こだま返らず。）

と、いうわけだ。でも、やっぱりラストはこういう言葉がいいね。いくよ！『あっかんべー』これはミス！　次よ！

『元気でね！』　（たった一人！）

これでおしま〜〜い！

では、リクエストにお答えして、遠藤ミチロウ（スターリン）で「仰げば尊し」。オット、もう一言あった。これが真のラスト。で、「来年もよろしく！」だと……。

Q23　ルクールのイメージ

えっとー、この「ルクールのイメージを書いて下さい。」、という質問の前に、「ルクールを知ってますか」、という質問もとっていますんで、まず、その結果からいきます。

○しっている　79％　○しらない　100－79＝21％

みんな、知ってるんだよね、けっこう……。オレ、50％位だと思ってたもん、しってる人……。

さて、知っている人が79％！もいたところで本論である「ルクールのイメージ」についてふれたいと思う。これは、大きく2つに分類された。1つが、「暗い・存在感ない・つまらん」派。これは全体の45％位。

ルクール＝暗い、というイメージは絶対である。（やっている本人が言うんだから間違いはない！）今、ルクール委員は三年を除いて27人位いると思うんだけど、その中で原稿をまともに書くのが15人位、そして編集などの最終的プロセスまでもっていくのが、6人位。ルクールは、ほんの一部の力でつくられているんです。暗いな〜〜。それに外部からの原稿（とくに生徒）募集もなく、終業式頃、ポンと出る。存在感ないよね〜〜。それから、「行事」なんかの形式にしばられるし……、つまらないよね〜〜。（ああ、暗くなってきた……。）

もう一つは、「よい！」これが50％位。（「よい」という言葉が多かったのは〝爆風スランプ〟の影響かな〜〜。）これは、今いちわからない。まだ、ルクールはよいと呼べるほどにはなっていない。よいと呼べるようにするには、もっと、もっと、生徒中心にならなきゃいけないし、ある程度、形式というものをやぶっていかなきゃいけないと思う。誰かが「びんぼう！」と、書いていたが、本当に予算はないし、「派手にしろ」という人もいたけど、カラー印刷には、今の3〜5倍の予算がかかるし、ああ、やだ、やだ。『よい！』という意見を書いた人には、ありがとさんと、言いたいけど、内容はまだまだです。ゴメン。今年はある程度おもしろくなったと思うけど……、まあ、来年に期待していて下さい！

さて、では残りの5％はどんなのがあったかというと、以下のようなもんです。

『本屋で売ってない書』、『年に一回』この二人、スルドいなあ。『名前の意味がわからない』あなたのためにつくったページがあります。㊟P.7ね！『努力のかたまり』そ、そうなんです。さっきも書いた通り、ほんの少数のね！

『ひま』、『さぼってる』、『つかれた』これすべてルクール委員の意見だと思うんだけど、差があるな〜〜。でも、やっぱり一番よかったお言葉は、これよ、これ！

『一生けんめいでごくろうさまです。』（二－Gのだれか）

こういうのは、素直に、うれしいですね！　どうもありがとう。（ただ、「イメージ」という点から見るとはずれているな〜〜。）さて、ラストには、これを。

『まさに松高』

そ、そう、そう。ルクールは「松高製」でっせ！

総　評（になってない総評）

今回の「ル・クール」における最大の問題は「いかにしてページをうめるか！」という一言に尽きていた。楽をしてページをうめるには……、と考え、考え、そしてラストに行きついた所が、この〝アンケート〟であった。（こんなことを書くと、なんだサボッテルんじゃないかと思われるが、実際はそんなことないよ！　数十人を除いては……。）アンケートをやる！ときまった時点で、もう日数がなかった。だから、すぐとりかかった。そして、内容がなく、まとまりのない無意味なアンケートができあがってしまった。今回、ここにのせたアンケートは、その中の〝おいしい部分〟をピック・アップしたものである。もし、知りたい結果があったのに、のってないよー、なんていう人がいたらあやまります。「ゴメンナサイ！」

さて、このページは「アンケートの総評」として書かれているわけだが、まだ、今イチ、結果が自分の頭の中でつかみきれていない。〝フツウ〟なんだろうか、それとも、松高らしい〝イジョウ〟というか〝ヘンな〟結果なのだろうか。（個人的には、〝マトモ〟だな――と、思ってるんだけど……、全体の結果をみたかぎりでは……。でも、みんなはほんの一部分しかみられないんだもん……、その中のね！）、こういうのは、わかる人は〝チラッ〟とながめただけで「これは、○□△×◎♨㊤で☆☾＊だ。」な〜んて、いとも簡単に〝サラリ〟と言っちゃうもんだけど、わからない人は、どうやったってわからないものなんです。僕はモチロン後者です。

さて、ふたたびアンケート編集段階における〝苦労？〟話をしたいと思う。

さっき〝おいしい部分〟をピック・アップしたといったが、これも大変な作業であった。し、しかし、これ以上に大変だったことは、「アンケートの集計」であった。プリントで3枚もあり、しかも質問のほとんどが抽象的であるのだ。夜中までかけて集計し、集計し終わった時には、もう手首がいたくて、いたくて……、もう……。

では、ここでアンケートを集計した方々に
かんしゃの念を込めて

『ありがとうごぜェ〜〜ました。』

それから、各クラスから集計結果がまわってこなくて……、
けっきょく！

451名

しか集まらなかったんだよ！　だから、君（あなた）のアンケートは、のってないかもしれませんね――。いちおう出ているクラスは、

二―G、二―C、それに……、やっぱ、やめた！

では、ラストに、のった人ものらなかった人も含め、一言いわせてもらいます。

『どうも、ありがとさん！でした。』

教師 今昔物語

―このコーナーの見方―

① 次のページの上の方に今回原稿を書いていただいた先生方の現在の写真があります。
そして真ん中にはその先生方の若き日の写真（一枚だけその先生の子供さんの写真）があります。
まず、今と昔の顔をよく見比べて同じ人だと思った同士に線を引きます。

② その次のページには、その先生方の若き日の思い出が書かれています。これを読んで下さい。

③ 読み終わったら話の内容からそれぞれどの先生か見当をつけます。
そして前ページに戻り①の続きをします。
つまり、この先生だと思った文章とその先生の文章のタイトルを結ぶわけです。

④ これで完成！
最後のページに答えがあるので自分の書いた答えと見比べてみましょう。

※注意

- 答えは必ず最後に見ましょう。
- 一つだけ赤ちゃんの写真がありますが、それはその先生の子供さんです。本人ではないので間違えないように。

奥谷先生の写真がなかったのでイラストです。ゴメンナサイ！→

・・・セーラー服の高校時代

・・・鶴飼育日記

・・・高校時代と今

・・・一葉の想い出

・・・村の若い衆にとってもらった写真

鶴飼育日記

ある看護学科の教授は、講義で次のような話をした。

「私のところに今度来た患者は言葉も話せず、こちらが何を言ってもわからない。その上自分ひとりでは動けず、他の人に運んでもらうしかない。食べ物は流動食しかうけつけず、排便もたれ流すばかりである。」

学生達はその患者の重い病状に深く同情した。しかし、教授は、その患者の世話は全く苦にならない。むしろ楽しみである。と言いながら一葉の写真をとり出した。それは生まれたばかりの彼の娘の写真であった。

我が家にも同様の病状を示す患者がやって来た。我が家の患者は、逆進化症候群におかされ、ヒトからサルへ、さらに鳥類へと退化してしまった。名をツルちゃんという。話す言葉も鳥類語であるため、始めは全く分らなかった。近ごろは気分により発する鳴き声や表情が異なることが解明されてきた。特に気分のよい時に発する「エッグー」という鳴き声は「ツルの一声」と呼ばれる。

我が病院（動物園？）ではツルちゃんの主治医（担当飼育員）がハッスルしており、アルバイト飼育員の私にはなかなか慣れず、私が抱くと泣くという状態が続いていた。しかし最近は私が帰宅して声をかけると、顔を見て笑うようになった。はっきりいって最高にカワイイ／と思った時私は「親バカ症候群の患者であることをはっきりと認識するのであった。」

セーラー服の高校時代

私の通っていた高校は、三方が下り坂になっている高台にありました。校庭も広く、学校全体が活気にあふれた明るい雰囲気でした。昔は女子校だった事もあってか、女性上位だった気がいたします。一年先輩に加藤登紀子さん、同級に吉永小百合さん。そうです、私の通った高校は都立駒場高校です。

走るのが得意だった私は、入学するとすぐ陸上部に入り良き先生・先輩・仲間に恵まれて、二年生で早くも全国大会第4位。陸上競技に明け暮れる毎日でした。

しかし、高校を卒業して二十数年が経つというのに、今だに思い出すとチクリと心が痛む事があります。体育の授業の事です。陸上競技であればクラス内の誰にも負けないなどと生意気な事を考えていた時です。学校のまわりの坂を上り下りする持久走の時、私はもちろん一番になるものと思って適当に走りました。抜かれそうになるとスパートして先頭に、そしてまたテレテレ走っていたのです。しかし長くなればこんな走り方も苦しくなります。ゴールした時はグッタリでした。こんな私のすぐ後ろからゴールしたのは、おとなしくてまじめな、あまり運動しない友人でした。ケロッとしているのです。終って、私はイヤーなあと味を残しました。自分の高慢なレースはこびがどんなに恥しかった事か。黙々と同じペースで走りきった彼女の態度に私は教えられたのです。地味な努力を続けなければ。

高校時代と今

「あなたはどちらの方面に進みたいのですか。」高校二年の冬、そう担任の先生に聞かれました。その頃私はほかにやりたいことがあったのですが、成績が悪くて恥ずかしくて言い出せず、つい出まかせに、英語が一番得意だったものですから、「さあ、英文科にでも行きましょうか。」と答えてしまいました。非主体的な話ですが、これが私の進路選択の出発点でした。

その後何度か迷い、英語を専攻するようになってからも、本当に自分に向いているのだろうかと悩んだこともありましたが、英語も日本語と同様、美しさと深みのある言語だということがわかるにつれて、英語をやっていて良かったと思うようになりました。そしてそれを次の代に伝えたくて教師になりました。

今、教師をしていて、生来の消極性やら欠点やらがぼろぼろ出てきてさんざんですが、自分としては楽しいこともうれしいこともたくさんあります。そこで、授業のやり方ひとつをとっても、自分が他人にはなり変われないように、自分にはできそうもない事柄がありますが、思い迷いながらも、その場その場で自分にできることを精一杯やっていくだけ、と思っております。（写真は高校三年の四月、修学旅行で金沢の兼六園に行った時のものです。）

一葉の想い出

この写真は現在の諸君と同じ年代、今から四十年前終戦の年に撮した一葉である。

笈を負うて都に出たが、戦況の悪化でペンをとる手に銃を持つ非常時局、当然軍需工場に動員された。中学生の頃も勤労動員で農家の人手不足を補い食糧生産の一翼を担った。勉強の時間も、先生方との語らいも少なく灰色の時代であった。

間もなく終戦。戦後の混乱の中で、すぐ学窓には戻れず自宅待機をされた。音楽学校（芸大）に進んだ友人達と連日連夜、ベートーベンに在ったのもこの頃である。

丁度、まちの女学校の校長先生が私の先輩で、遊んでいるのは勿体ないから学校に来ないかと誘われた。修身公民（今の社会科）の授業を手伝うことになってしまった。旧制中学四年から進学したので、女学校の最上級生は、小学校の時の同級生である。多少の惑いはあったが真摯な態度で、運動で鍛えた頑健な体とそして強心臓で仕事に体当りしていった。放課後の運動でも校長先生を始め職員、生徒がいっしょになって楽しんだ。コーチした運動部が地区大会で優勝したことも忘れられない想い出である。職員室での先生方との語らいも、いつも明るく、非常に楽しかった。教師として生徒に接する姿勢も、たくさん教えられた。今日、松高の教壇に立って諸君と楽しく学校生活を送れるのも、この頃に教えられたことが大きく影響していると確信する。

村の〝若い衆〟にとってもらった写真

私の、自分を写してもらった、一ばん古い写真がこれです。一九三〇年代半ば、小学校四、五年生のころだったと思います。

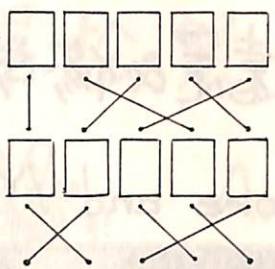
写してくれた人は、町から帰ってきた隣部落の〝若い衆〟でした。背景は湖水です。若狭湾の沿岸に、三方湖という小さな湖があります。私は子供時分に、夏、ここでよく、「水浴び」をしました。私の左手に持っているのは水中めがねです。ここは船着き場でした。

原画には、十一人の遊び仲間が写っていて、私はその右端につっ立っているのです。私のそばにいる、三つ四つ年下の子二人と私だけは帽子をかぶっていませんが、なぜか他の人は夏だというのに長ズボンをはき、白い日よけのついた学童帽をきちんとかぶっています。

「あんなもの、写らへん。」と、私はその〝若い衆〟の小さな写真機に向かって言ったのを覚えています。このころ、写真機はとても珍しいものでした。ここに、私の生涯における最も幼少のみぎりの映像が焼きついたのでした。この写真がどうして私の手元に届けられたのかは、よくわかりませんが、不思議なことに、写してくれた〝若い衆〟の名前は覚えているのです。

原画は一寸角くらいの小さなものでしたが、これを数年前、思い立って複写（拡大）したのでした。私にとって、かけがえのない一枚の写真です。（一九八五・一・三〇）

正解 →



※全部当たったからといって「ハワイ旅行」やその他もろもろの特典などは一切ありません。勝手に自分で喜んで下さい。

※上条先生の昔の所にある赤ちゃんは上条先生の長女で名前を鶴子ちゃんといいます（似ている？）。

※この企画は次号も続くかもしれません。御希望の先生がいましたら各クラスのルクール委員まで。

☆最後に御協力いただいた

- ○上条先生
- ○窪田先生
- ○奥谷先生
- ○樋口先生
- ○赤尾先生

ありがとうございました。

読んで驚け!

○さえてる!うけ
ー大好評ー!
見る!

視点がちがうぜ!

クラス紹介

遠足&修学旅行

CLASS
しょうか

光るルポ!
やはり

体育祭

輝松祭

And More and More.

そして今だ謎である

★大特集!

ベールはいつはがされる?

★君の才能が欲しい!
だから
原稿募集
もやるよ!

■乞うご期待。

Vol.34 ルクル

1986
3.25
はっぱい!

制作快調!!
せーさくかいちょう

クラス紹介

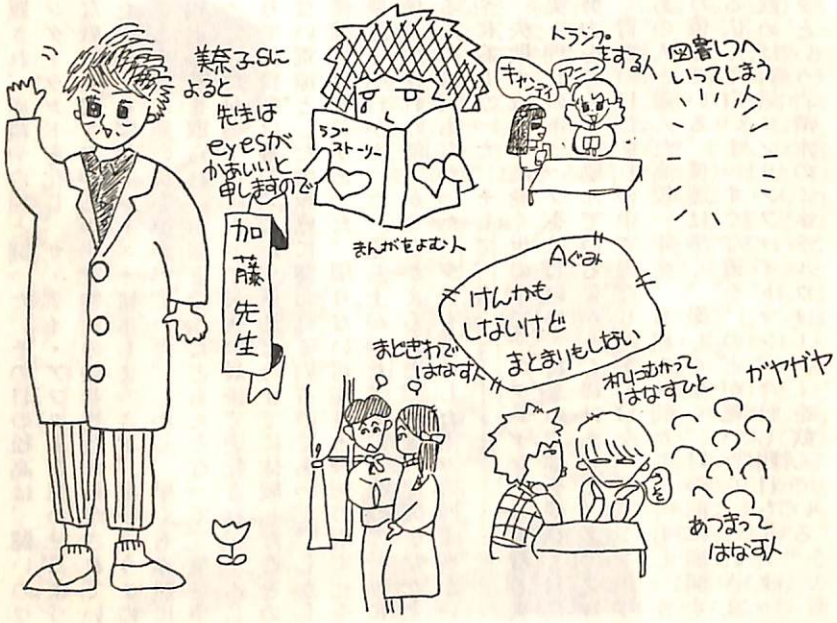
一年A組

うちのクラスは、自慢できるほどいいクラスではないけど、わりと楽しくていつもワイワイやってます。入学当初は、みんなシャイなようで、クラスがプップツ分かれてたけど、今はみんなで仲良くしてます。うちのクラスの実態を知るのには、休み時間の様子を見ればいいと思います。男子も女子もみんなそれぞれ、自由にいろいろなことをしています。それでもみんないっしょにいて楽しいし、けんかもしないからまあまあのクラスだと思います。

担任の加藤巧吉先生は、キラキラかわいい目のチャーミングな先生です。厳しい時もあるけど、その中にもちゃめっ気があって憎めません。物理を習えないのが残念です。

一Aは、シャイでかわいいクラスです。

by ㋮



一年B組

僕達のクラスは、入学して間もないのに、とてもまとまっていました。それは、B組を構成する一人一人の人達が明るくて、知的で、協調性が強く機智に富んだ個性的なみ力をもった人達ばかりだからです。自発的に、学年目標にそったクラス目標を作成し、日夜努力を積み重ねました。その甲斐があって、担任を始めとする諸先生方にまで、信頼され、親しまれています。こういう僕達ですが、成績は今一つで、担任の橋本正先生の悩みの種の一つです。ロングホームルームでも討論会が活発に行われ、欠点を一つでもなくそうという姿勢が見受けられます。しかし、実行にはなかなか移せないようで四苦八苦しています。まあ悩みがあるというのもいいんじゃないですか。

文化祭は文化祭で劇を演ったらうけてしまいました。何故なんだろうと考えたがよくわかんなかった。結局は演劇に対する僕達の情熱が栄光を勝ち取ったのでしょう。役者と裏方が一体となってそれぞれの持場を責任を持ってがんばったからだと思います。いい思い出となってみんなの胸に刻まれていることでしょう。幸せ気分のハッピピ！

なんせ夏休みから綿密な計画を立てて着々と準備をしたのがよかった。

五月のさわやかな風の吹くころのことであった。松高のグラウンドで体育祭は開催された。わがクラスは青組に配属され、赤組や白組と闘った。その日の松高は、闘いのワンダーランドと化し、ザ・デイ・アフターを思わせるような戦国時代さながらの平家物語の絵巻物語が再現されていた。燃える闘魂アントニオ猪木もまっさお。星ひゅうまのごとく瞳に熱い炎を浮かべていた。しかし、早くも赤組に独走態勢を取られ、白組とのふたどもえとなって二位を争っていたが、午後に入って最後の最後で逆転され、どんじりで体育祭は幕を閉じた。僕達は今までに体験したことのない荒涼とした虚無感に襲われているのであった。しかし僕達には明日があった。限りない可能性と理想の現実化を夢見る明日があった。立ち上がった。その無意識の行動に僕達の優れた能力がうかがえられた。僕達の健闘をたたえるものは何もなかった。夕日を背にした木々の四重奏がいやに寂しかった。そして、今……

失敗や成功の渦巻く世の中で、アクシデントの重なる現実と理想のギャップをはねのけ、将来の幸福を夢見て日夜努力を怠らずに励んでいる姿がそこにはあった。あの光輝く青春の日だまりの中で過ごしたあの日々、あいつと語り、あの人と遊んだ高校一年生。B組の仲間たち。今もしっかり憶えている。僕達は歩く。楽しく歩く。目の前に展開する広くて白いまっすぐな道を。のどが乾いたら、これさえ飲めば勇気リンリンファイトマン。今日も明日もルンタッタという岩清水のミネラルウォーターを飲んでいる。

一年C組

一年C組は、色にたとえると白です。　、赤色や黄色のように目立ちはしないけれど、なくてはならない色彩だからです。

入学して、初めて〝クラス〟としてまとまったのは、体育祭のときでした。みんな一人一人が、がんばったので、最後に逆転してビリから脱出しました。

文化祭は、〝白雪姫〟をやりました。主役の白雪姫は男の子でした。夏休みも、一生懸命練習しました。主役が始まってからも、係ごとにわかれて練習しました。

いつもは静かなクラスも、みんなで協力したので大勢のお客さんに観てもらうことができたのでありました。

二学期になって、私達は岡野先生がお母さんになることを知りました。突然のことだったのでびっくりしたけれどみんな喜んでいました。そこで12月のロングホームルームの時間、先生のお別れ会を開くことになったのです。先生は何も知らずに教室へ来たので、とても驚いていました。みんなは「元気な赤ちゃんを生んで下さい。」「今までどうもありがとうございました。」……と言葉を贈りました。クラス全員、それぞれの言葉に先生も頷いてくれました。

土壇場にならないと実力を発揮しないというややひねくれたクラスでありますが、それが我が一年C組なのであります。

日頃のクラスの様子は、というと、先生方はみなうちのクラスのことを「静かなクラスですね。」と言います。うるさいクラスと言われたことはほとんどありません。その通り、授業中はほとんどいつもシーンとして静かです。もちろんしゃべる人はいますが、しゃべり声が他のクラスにくらべて小さいそうなのです。でも、クラスの中の人の中には、うるさいクラスだと思っている人もいるかも知れません。最後になりましたが、担任の岡野先生はほほえみをたやさない、明るくてとてもすばらしい先生だと思います。残り少ない高一を楽しく過ごしましょう。

一年D組

D組の特徴を一言でいえ、というならば、〝特徴がない〟と言うのが最適だろう。しかし、ない特徴をいくつかあげるとすれば、まず、団結力に欠け、全体にまとまりがない。そのいい例として、文化祭があげられる。たしかに一緒にやることはやったが、「みんなで何かを作り出す。」という気持がまったくこもっていなかった。つぎにあげられるのは、担任（磯貝・社会科）の存在である。「D組といえば磯貝」といわれるほど、ここの担任の存在感は強い。もし、担任がちがっていたならば、ここのクラスは、ただの活気のないネクラのクラスになっていたかもしれない。あの迫力ある声が、毎朝聞こえてくるからこそ、このD組は成り立っているのかもしれない。他には、生徒会委員が二人もいるとか、男より女の方が学力が上であることぐらいしかない。すなわち、このクラスD組は、団結力がなく、中心になる人物・リーダー的存在がなく、何かをやる、という気力がない、松原高校特有の〝三無主義〟を代表するようなクラスではないでしょうか。しかし、こんなクラスでも、やはり同じクラスであるということだけで、みんな、お互いに親近感をもっているのではないかと思います。

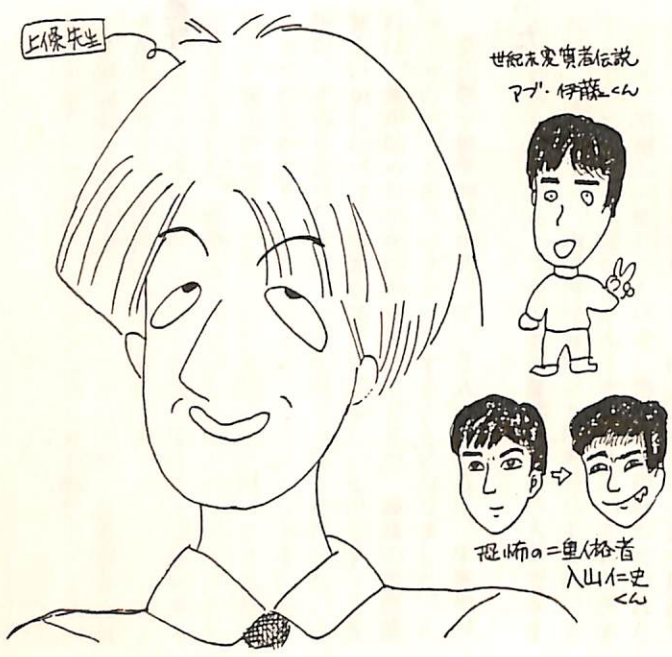
一年E組

僕達一年E組は、ハッキリ言ってまとまりがあるのかないのかわからないという、何とも不思議なクラスです。

なぜ不思議かというと、うーんと、伊藤クンというのがいるからに決まっています。みんなは彼をアブと呼んでいるのである。なぜアブかというと、〝ふつう〟じゃないからなのだよ。アブ○○○○なんだよね。それでそのお顔はわしらのクラスの担任上條先生に似ておるのです。

ところでその上條先生だけど、まったく明けても暮れても「つる」「つる」というのであーる。ホームルームの時間に必ず二回以上は、「うちのつるちゃんはネ。」というのであーる。そのときの先生の顔はニタニタしてとってもしまりがない。つる子は先生が抱くと泣いてしまうというがつる子に限らず赤ちゃんならだれでも泣くに決まっとる。（つる子は上條先生の娘です）

それから一年E組には一Eノートというのがあるんだよ。すごいだろう。協調性がないわりにはそんなノートがあるんだ。うん。そんじょそこらのきっさ店のノートとはわけがちがうのである。まあ似たようなものかもしれないけど……。で、中身だけど、どんなこと書いてあんのかというとこれがまたすごい。みんなふちどりマーカーとか持ってきてカラフルカラフル。いろんな切り抜きとかはってあったりして。授業中も夢中で書いてるんだよね。だから上條先生ともども、よろしくお願いしちゃいます。まあこんなクラスだけど、けっこうまとまってるつもり。



一年F組

今日は、クラス紹介を書くには、絶好
の日であった。
気温　18℃
少し肌寒い。
空は「青く」
空気はすんでいた。
で、でも、オレには「才能」
がなかった。
イ、い、伊、一－Fのみんな！
「ゴメンナサイ！」
私の才能がないばかりに

一九八五年
某月某日。

二年A組

えっと、クラス紹介です。
このクラス、2年A組は、松高の王者です。王者といえば一般的には、大変えらいという印象がありますね。でも。その松高でダントツでドップなのは『ちこく』なのです。それを群を抜いて全校一なので……。そういうわけでして、担任の、紳士『三壁ていちゃあ』は、頭を痛めているのであります。
紳士、三壁ていちゃあと言えば、大変に奥様&創くん、郁ちゃん（お子さんだよ）を〝愛している〟のです。はい。先生が御家族の話をする時の顔はネ……くふふっ♡
そして2A全員をそれと同じくらい、またそれ以上？の大きな愛でつつんでくれているのです。2Aは、悪ガキ48名と、それをやさしく見守ってくれる父ちゃん（三壁先生）の『愛』につつまれているスゥイートホームなのです。
2Aの一日は、8時30分チャイムと同時にかけこむ人の足音であわただしく始まります。
休み時間は、雑談したり、マンガを読んだり、早弁して教室にお弁当のニオイがたちこめてしまったりします。お昼休みは、教室の外に行ってしまう人もいて比較的静かです。おーっと！　念のため付け足しておきますが、決して暗いムードじゃないんですよ！　和やかなムードでいっぱいなんです。5・6時間目は、睡魔と戦うための戦場と化します。授業が終わると、みんな急に元気になって、ショートホームルームでは、三壁ていちゃあを困らせるほどにぎやかしてます。
ところで、皆さんは、文化祭で最高の人気を集めた〝お化け屋敷〟に入りましたか？　あのお化け屋敷は、2Aが団結して、一生懸命に努力して成功させた汗と涙の結晶なんです。準備も大変だったけど　当日は仕掛けがこわれたりしてそれはもう大変だったんです。中に入っておどかす人は、汗だく……。後片付けもホントに苦労しました。でも、苦労したかいあってか、展示部門の一位に入賞できました。
文化祭や修学旅行が終って、2Aの楽しみは、牛乳やジュースのパックをコレクションすることになりました。これは、誰が始めたのかわからないのですが、最高の色彩感覚をいかしたパックの展示は、すばらしいものです。I先生が、ずらりとならんだパックを見て「早く片付けないとウジがわくわよ！」などと叫ぶと、みんなうひゃうひゃと笑って喜ぶのです。でも、いつの間にかこのパックは消えてしまいました。愛着をもっていたパックがなくなってしまったことは残念だけど、またそのうちに2Aらしいギャグが生まれるんじゃないかなと思います。
支離滅裂な文章を書いてしまいましたが、2Aがどんなクラスなのかおわかりいただけたでしょーか？

二年B組

私にクラス紹介しろだなんて、ちょっと無理です。この二年B組の人で、クラス紹介できる人なんて何人いるのか――。だってこのクラスはバラエティにとんでいるんです。沢山の違ったタイプの人の集まりなんです。だから、この集まりを『クラス』という単位でまとめて書けだなんて……とんでもない。というわけでクラスのみんなに聞いてみました。

「活気がない。」「つまらない。」「今いちさえない。」「夢なら早くさめて。」「クラスとしてのまとまりがない。」「みんなちゃんとしてくれなくちゃだわ。」「グループに分かれすぎている。」「勉強をしすぎる。」「協調性がない。」「困難にうちかて。――？」「変な人がいる。」「女子同志仲よくしたい。」「ばかをやるやつが少ない。」「K先生がとりついている。」

などなどの短所に数にくらべ、長所は、「一年の時より明るく楽しい。」「ストーブが新しい。」「まじめ。」「男子はけっこうおもしろい。」「文化祭ではみんなすごくまとまっていて、がんばった。」

その他、「ごく平凡。」「ある時は明るく、またある時は暗く、ある時はまじめで、またある時は不まじめ。」「多少、世間一般の高校生のスクールライフから逸脱した者たちのよせ集まり。」なんていうのもありました。

短所なんてみんなよーくわかっているくせに、なぜなおそうとしないのよっ！　もっとみんなで仲よくしようよぉ！　いいクラスにしようよ！　――なんて、個人的な感情を入れちゃってどうもすみません。

ほかのクラスの子から見た二Bは、「うちのクラスよりはまし。」「暗い。」「明るい。」「おもしろそう。」「うーんっ、よくわからない。」と、まるでわがクラスのごとく、まとまっていませんでした。

担任の赤尾先生に聞いてみると……「女子の方が勉強をしている。全体的にほどほどに楽しそうに見える。まとまってないと言われているが、文化祭のことを見ても、みんな次第で十分にまとまれる要素はもっている。安心できるクラスである。」

と、人それぞれの意見もバラバラで、私の文面もバラバラ。もうわけがわかりません。頭の中はパニックです。

これ以上書くのは、不可能なのでもうやめます。最後におわびしたいことがあります。ほとんど他力本願になってしまいました。ごめんなさい。

ひろみ・けいこ

二年C組

わたしは、最初二年C組のことを、おとなしいクラスだと誤解していました。実際、みんな集まるとおとなしそうに見えますが、ひとりひとりは種類も豊富な、楽しいクラスです。中棟の生物室のそばにありますから、遊びにきて下さいね。ときどき、わけもなく、重たい空気におそわれるのは、やっぱり担任の影響ばかりではないのかもしれませんが……。???

授業などではなぜか、よく半端として扱われる存在です。授業中は、意外と静かな様子なので、先生方への印象は良いかと思いますが、そうでもなさそうです。理由はいろいろですが、まず遅刻や欠席が多いこと、成績があまり良くないことなどではないでしょうか。また、このクラスのまとまりのなさは、リーダー的存在の薄さに起因しているようです。

短所ばかり挙げてしまったようですが、本当は長所だってあるんですよ――！　具体的には言えませんが……。長所も短所として言ってしまったんですね。ハ、ハ、ハ。

マイペースのさり気なさがみりょくのC組でした。

二年D組

みなさん、こんにちは。二年D組の時間でーす。

うちのクラスは男子二十二人、女子二十四人の計四十六人のほんとうにごく普通のクラスです。まあ、これから話すことはたいしておもしろいことではないですが、最後まで一通り目を通して下さい。

まず、二Dの教室は北棟の二階にあるんですが、なんと女子トイレのそばにあって、いつも異様な感じがするんです。だから人々はここをこう呼んでいます。「暗黒地帯」ウワァー、ついにこんな事まで出てしまった。というのはジョウダンで、ほんとうはとても良い場所のように思う。

さて、うちのクラスは、どんなクラスなのかよく分からない。でも、しいて言えば、おもしろいクラスで、授業中に騒いでいるとよく先生に注意されます。それで、一度騒ぎ出すともう怖い。たちまち嵐のようにざわめき始めるというパニックが起こってしまうほどなんです。他のクラスの君達、耳を潜めてごらん。うちのクラスの異様な騒音が、じわりじわりと君の耳に伝わって行くだろう！

なんてこんなことを話しながら次に我らの担任について話そう。二Dの担任は〝横山早苗〟先生であります。この先生は、音楽を担当していて、背が低く、顔は×××。おまけに単純だから乗りやすく怒りっぽい。しかし、そんな性格に好いていることは確かだ。副担は〝窪田邦江〟先生で、保健体育を担当している先生です。この二人がいっしょになると〝宇宙人コンビ〟などという言葉が飛び交ってしまうほどです。こんな話を聞いているだけで、君達の心臓はドッキンドッキンしてくるだろう。

こんな事を話しているうちに、終わりの時間になってしまいました。二Dのクラスの実態をわかってもらえたでしょうか。ほとんどの人はわからなかったと思いますが、最後まで目を通してくれた事に感謝致します。

最後に一言。ありがとうございます。

—完—

カット協力　藤岡

二年E組

僕の知っている不思議なクラスを紹介しよう。その不思議なクラスは、実に不思議なのである。どのように不思議かというと、それをこれから話すことにしよう。

まず第一にそのクラスは暇のかたまりなのである。かたまりというのだから、集合体なわけで当然この場合、クラスのほとんど全員を指す。これだけでそのクラスがまとまっているということがわかってもらえよう。しかし、この後が難である。それはそのかたまりを構成する粒子が暇だということである。暇という欲求不満を持った人々が、その暇をぶつけ合うために、一つの集合体をなしてると言い換えることができる。これは不思議である。全くもって不思議である。それは何故か。その解答はいとも容易にかたづく。暇たら暇でかたまらないのが現代の風潮だからである。日々の退屈に嫌気がさしながらも、てめえはてめえで自分の権威を他人に押しつけることさえできない状態がそれである。しかし、そのクラスはちがっている。まとまっているのである。その暇というデカ物が、寄せ集まってつくるパワーは壮大である。またそれは一種異様でもある。最近は、異様などという言葉が平気で使用できるのでうれしい。まあそんなことはどうでもいい。話しを続けよう。そして第二にこのクラスは毎日がお祭りだということである。花が咲いてるって感じ。つまり明るいのだ。私はここが気に入っているのである。仮にもしそのムードが暗かったとしよう。それはたちまち暗い暇のかたまりというネームがつけられ、ただそれは、「天皇家の皇室」なだけである。

ここまでの説明でこのクラスは明るい暇のかたまりということになる。不思議なクラスだ。不思議だからいいのである。アウトスタンディングなものなんて誰も求めちゃいない。これ、つまらないから笑おう、と思ってることに気づいてくれるかなってのが重要なポイントなのである。しかし学校ってのは時代の仕掛け人達の養成スクールじゃないから、この状態は現実面から見れば、前向きの姿勢とはいえないだろう。しかしこれを一端前向きの矢印に換えればそれこそ一大事である。勉強をよくする明るい仲間という最高のケースである。しかしそれだけじゃ何かつまらない。何かが欠けている。何かこう洒落れたやつ。

前にもいったようにこのクラスは珍らしい。現代では不思議なクラスなのだ。せっかくだから、その不思議を、異様さを捨てずに前向きの姿勢を見せようじゃないか。ここに初めて新しいポテンシャルが生じるのだ。暇だった人達が隠していたパワーを発散させるのだからすごいじゃないか。21世紀はアウトスタンディングでかつ逆接的なものが征服する時代だ。暇だった人間たちならそれを知っている。このクラスだ。暇だった明るく不思議なクラス、二年E組が何かをしでかす日が、近い将来必ず来ると断言して終わる。

二年F組

我々は清原先生を中心に、ごく普通のクラスだと見られているようです。これといってバカをやる人もいないし、突発的にクシャミをする人もいない。遅刻者も他のクラスから比べて、本当に少なくて良いクラス。

でもある意味では、青春を生きている若者として、元気がたりないような気がしないでもない。

そんなことを実感したのは文化祭の数日前のことだった。教室では、文化祭の出し物に関して討論をしていた。いや、討論と言えるべきものではなかった。ただ、みんながみんな、誰か意見を出さないかと、待っていたようであった。年間行事の中で最も大きな行事である文化祭を数日後にひかえ、みんな実感として受けとめていなかった。

しかし、この元気のない若者の集団の中にも、真の若者が若干いたのであった。その若者たちによって、我々は目覚めたのであった。

文化祭前日の我々の頭のさえには、目覚ましいものが見られ、始めに考えていたものより、どんどんアイディアが広がり、数日前から自覚をもちはじめたとは思えないほどの、できばえであった。

そして、修学旅行で更に、団結力が増してきたようだ。しかし、だからと言ってその団結力が、悪い方に傾いては、困るのである。

そのために我々は、当り前のようであるが、一人一人、目標を持ち、自覚していかなければいけない。

こんな当り前のようなことができて、はじめてその人の人生が、張のある楽しいものになるのであろうから……。

しかし、人間とは意志の弱い動物のようで、目標を持っていたとしても途中で、挫折してしまう人もいるかもしれないが、我々は、二年F組という強いきずなで結ばれた、一つの集団である。また、これから卒業まで、このクラスで行くわけだから、尚のこと、人生を投げ出すような人が一人も出てこないで、みんなが目標にたどり着けるようにみんなで協力し合えるクラスになりたい。と、思うし、二年F組とは、そうできる素質があると思う。

さあ、義光、真司、信之、健一、敏史、文治、純、徹、誠司、弘行、努、英五、正宜、孝一、寧、邦俊、雅和、誠、恵司、晃、明、知彦、卓也、そして、優佳、佐江、聖子、祐子、文子、久美、陽子、淳子、容子、裕美子、佳苗、留美子、照代、早苗、英子、双美世、祥子、実穂子、敦子、由起子、照恵、かおり、裕美、『限りある人生に、生き涯いを求め、無限に生きよ!!』

寿限無（二G）

寺本家での出来事

父「もうそろそろ子供の名前考えねーとな」

母「そーね、でも、どっちが生まれるかわからないし」

父「どっちでも合う名前にすりゃいいじゃねーか」

婆「初孫だからね。偉い人につけてもらいなさいよ」

母「そうだ。伊保寺のお坊さんなんかどうかねぇ」

父「そうさな。じゃ、さっそく出かけるとするか」

伊保寺にて

父「あっ、ここだ。すいません。いるんですか」

坊「ああ、何の御用でございましょうか」

父「子供の名前をつけてほしいんでさぁ」

坊「お安い御用ですよ。それで性別は」

父「かかぁの腹ん中でわかんねえんでさぁ」

坊「それなら両性の名前を例として上げますから、気に入ったのをつけなさい」

「男の子だったら、洋・岳史・明佳・義純・信一郎・崇行・貴之・宣法・雅也・隆史・圭介・哲也・和秀・繁・輝・伸一郎・猛・誠司・哲志・幹夫・淳・大・雄。

女の子だったら、ゆき、宏美・史子・裕子・亜矢子・美香・昌代・育美・雅代・陽子・弘恵・敦子・景子・美穂・美弥子・明美・直子・由美・雪子・幸子・由里子・奈津子・丹玲・英子」

坊「この中のものがいいところでしょうな」

父「お坊さん、めんどうだから全部頂きまさぁ」

父、帰宅

母「お前さん、おかえり、どうだった」

父「いい名前をいただいてきたぜ」

婆「どんな名前なんだい」

父「紙に書いてきたから読むぞ」

「洋岳史明佳義純……由里子奈津子丹玲英子」

母「こりゃ長すぎやしないかい」

父「うちのために考えて頂いた名前だぞ、そうむやみやたらに切りはなせるけぇ。ばちがあたらぁ」

6年後、小学校入学

友「寺本君、学校いこ」

母「お友だちが来てくれたわよ、早く起きなさい」

父「ほんとにこいつは、洋岳史明佳義純隆の里……」

婆「まだ名前をおぼえていないのかい。なさけないねぇ。英子丹玲奈津子由里子幸子雪子……早くおきなさい」

父「なんでぇ、おふくろだって逆じゃねえか」

母「おそいわね。お友だちがまってんのよ。早くしなさい

雄ゆき大宏美淳史子……」

父「なんだい。おまえまでまちがってるじゃねえか」

友「おばさーん。もう卒業式になっちゃったよ」

寿限無という馬鹿々々しいお笑いでした。

三年A組から一人一言

男子から出席番号順に……

しのび　光電管。気づいた時には、赤キップ。ひょうろく　ジンギスカン食べてごらん、ウールだよ。大塚けん　世田谷区、経堂、宮坂、なんか冴えないなあ。ぼく一茶　閑けさや　岩にしみ入る　蝉の声。　KO　どうして書くことができよう。できるはずがない。　タミちゃん　忘れがたきもの、湯豆腐膳と桜餅お薄付。　なにすあ　ため息一つ　だぁめー。　くに　天津甘栗大安売だよーん！　みんなで食べよう。　小島ちゃん　ロック！　子供ばんど、ギター、輝松祭最高！　山医者　信じる人は救われる。　HIP　えいごの基本は発音から、シーとスィー。　愛しのすがやくん　世界中に誓えるのさ、愛しているのは目の前の君だと。　多治美さん　ぼうず　ねずみ　職人　三年間ごくろうさまでした。　谷ちゃん　こら大学受かるのか寝てちゃいかんよ！　ぼくはチューリンですボロボロの三年間でした。　はな　来年は高校四年生です。しげよろしく。　原君　原ちゃん、ゆうじ君、あだ名のない三年間でした。　久川　僕は決して赤が好きではない。ます、たこ、ろく　ア!!　ハ、ハ、ハ……　松井（松澤）　フィンガーファイブのアキラなんですの。稲妻!!　モモだめだ左手が動かにゃい！　俺は危険な男なんだぜ！　おじゃまんがタケシくん　アダナだけは困らなかった、ざんげ！　機長　これで三年間連続してルクールに登場。しつこい。

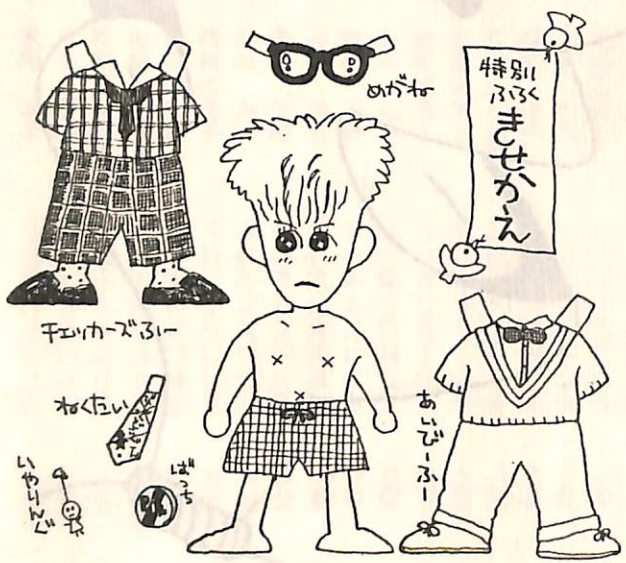
次は女子……

たっこ　「源さん！」「なんでもねぇんだよ。」いとーちゃん　嗚呼！　Ah！　Alas！　もう卒業なのー!?　Rieどん　デカイ頭とつむじでお騒がせいたしました(?)　えみちゃん　最後の一年間は、とても短い感じがした　とも　あっかんべぇー！　カワタン　最近「成長したネ」と言われた♡うれしいよ！　きみ　黄身、白身、ねこにごはん　こーちゃん　あーん。二十六文字じゃ何も書けないよぉ　あけちゃん　……思い出いっぱいありがとう……　桜井　〝さらば青春の光〟We are The MODS!!　佐々木　臭いが嫌い　凵顔が嫌い凵此の学校大嫌い　あっちゃん　単調で単調でしょーがない三年間だった　ぶぶ　……㊙㊙㊙、㊙㊙㊙!?　㊙㊙㊙㊙㊙っっ!!　田口　あー頭がいたい信じられないこのくささこの学校　エコ　夏は野球、冬はラグビー、ギャルしてる？　ハッチ　さよなら△　またきて□　よっこ　卒業しますよ——っだ　ひき　完成に達するとは出発点にもどること!!　SEVEN　この学校のひねた性格が怖い　かずちゃん　ただなんとなく漂っていた高校生活だった☆　おめがまん2　僕はとっても、まそこたんが凵にお、うっ　とこ　んーっ　とっころてん！

三年B組

またまたやってまいりました。三年B組でございます。三年生なんてーものは、受験だ受験だと騒いでいるうちに過ぎてしまうものなので、これと言っていまさら書くこともないのですが、しいて書くとすれば、まぁー展示部門で三位をいただいた文化祭のことぐらいでしょーねー。我クラスはあれをやったんですよね、あれを。ほら、テレビでも御馴染みのあの〝フィーリングカップル5対5〟！　見てくれました？　私達は、工夫に工夫を凝らし、あのN先生がおっしゃったようなテレビのまねではなく、本当は電気でやろうと思えば出来たのですが……、あっ、あえてその考えを捨て、あの暗闇に不気味に光る〝蛍光塗料で染め上げられた軍手〟を生み出したのです。これはまさに血と汗と涙の結晶ではないでしょうか。それにしても、あの台の下に入っていた女子の苦労も見逃さないで下さい。なかなかつらいんですよねー、あの下に入ってるのも！　しかし、それをものともせず、きちんと軍手の手を出してしまうなんて、んー頭脳プレイ!!　それに、天井も見てくれました？　黒いビニールに金色の星をあしらい、しかも、きちんとたるませてしまったという高度な技術を。まあ、はっきり言って、天井なんて見る人は見るかもしれないけど、見ない人は——という、大変危険なカケもなんのそのと、大胆にも頑張ってしまったのは、何をかくそうクラス全員です。

高校生活三年間のうち、このクラスで二年間という月日を過ごしたんだけれども、最高に楽しいクラスだったんじゃーないですかー、いろんな人種の人間がいて！　女子はもちろんかわいい子ばっかりだし、男子も、う——ん、かっこいい人ばっかだし……。この二年間の思い出を心に秘めて私達は今、卒業して行きます。な——んて、かっこよかった？　うふふっ♡



三年C組

三年D組

1	石川　勉	B型	
2	江沢　真	B型	
3	大江　充彦	B型	
4	大塚　俊夫	A型	
5	大野　英一	O型	
6	金山　宏	A型	
7	木田　寿郎	B型RH＋	
8	齊藤　健一	O型	
9	榊原　義夫	AB型	
10	佐藤　勝久	O型	
11	佐藤　孝一	B型	
12	清水　亘	AB型	
13	鈴木　進午	A型	
14	多田樹一郎	B型	
15	田原　裕貴	A型	
16	千葉　裕信	O型	
17	戸田光太郎	O型	
18	永野　武宏	A型	
19	野村　真	B型	
20	塙　昌之	A型	
21	舟山　知夫	A型	
22	松本　清志	O型	
23	吉本　光良	O型	
31	岩橋　弘美	AB型	
32	小沢　優子	O型	
33	小野塚佳代子	A型	
34	加藤　拡子	O型	
35	河合理恵子	A型	
36	川本　泰子	B型	
37	久保田尚美	A型	
38	才野　町子	O型	
39	櫻河　昌代	？型	
40	佐々木千恵	A型	
41	佐藤優香子	A型	
42	曽根原恵子	A型	
43	高岸　和子	B型	
44	田中　千絵	O型	
45	谷口　朝美	A型	
46	徳田　千秋	B型	
47	西沢　由美	A型	
48	西村由美子	B型？	
49	長谷川佳織	O型	
50	塚越　和子	AB型？	
51	松原菜穂子	A型	
52	八木　千春	A型	
53	米田　幸子	A型？	

三年E組

わが三年E組は、二階南棟の真中というあまり目立たない平均的な場所にあるクラスである。して中身はというと店屋の御子息が多く、肉屋、とうふ屋、牛乳屋、米屋などかと思うとデビルマンがいたり、獅子丸がいたりとアニメ面白ランドかとまちがえるケロケロ。

さて、冗談はここまでにして、そろそろ本題に入ろう。といいつつ、私の友人M君の家には、冷蔵庫の中に牛乳の1ℓ入を13本も入れて、牛乳屋の息子と対立抗争しつつ、ここで私の好きな詩を一つ。(何のこっちゃ?)

かざりじゃないのよ涙は、ハハーン
ハハーン　いい湯だな　ハハーン　いい湯だな

みんな、べんきょーやったか?　また来週、チャーン!

とまあ、これが我がクラスの議長の文章であり、これをみてもどれだけ支離滅裂なクラスかわかると思う。では、そのクラスの担任は、どんな先生かというと、あの女子高生に人気絶頂の馬場幸雄先生である。彼はお家のママにテニスを止められ、タバコをやめさせられ(三日ともたなかったようだが……)生徒には反抗され、苦しい30代を過ごしているようだが、それでも実はクラスのみんなに好かれている人気教師なのである。おせじの言い方も教わった。

話を生徒に戻そう。先程も話したように、各個人ひょうきん者が集まっているが、これといった中心人物がおらんのである。これが弱みでもあり、強みでもあるのさ。女子にいたっては、言いたい事はたとえきつくてもずばっと言うし、バレーの試合などというと他クラスから恐れられる程でして……。男子にいたっては、子ども子どもした人が多く、まあ中には年をとった人もいるが……うんぬん。

まあ、総じていい人ぞろいの根明ぞろいのおふざけ大好き少年少女のそろった楽しいクラスですのさ。

おわり!

三年F組

わが三年F組は、二階南棟の一番奥というあまり目立ちそうにない所にありますが、そんなことに全く関係なしに明るく、騒がしいクラスです。授業中にまでもちこされたそのおしゃべりで、先生に「うるさいですよ」とか「静かにしろ」などと言われることは、ほとんど毎日見られる光景になっています。クラスのほとんど全員がのりやすく、お調子者プラスお祭り好きな性格なので、授業中「先生、何々の話してえー」なんて言葉が飛ぶと、オー!という歓声とともに拍手がわいて、何とか授業を中断させようと全員で協力します。先生もけっこうのって「じゃあ、少しだけ話をすると……」とはじまって平気で25分しゃべり続けてくれたりすると、実に授業が充実したなと思ったものでした。

普段の三年F組は、とにかく小学生の集まりみたいなクラスという感じで、そんな私達のクラスを受け持っている国語科の我らが水谷先生を、それはそれは困らせています。よくおこられますが、全然言うことを聞かないのでクラスの雰囲気はまったく、二年生の時から変わらないで、いい意味であいかわらずといった感じです。

そんな三Fの大きな特徴は、いざという時の団結力にあると思います。いつものいいかげんさとは打って変わってすごいパワーを発揮します。特にそれが見られるのは文化祭などの行事などで、前準備がどんなに少なくても火事場のくそ力で、それなり以上のことをやってのけます。それにクラス中での生徒の助け合いの力が強いのも特徴とも思えます。しかしそれらが良い方にばかり働かないのがまた一つの特徴です。

とにかく、よくても悪くてもすべてに活気と明るさがついてまわるのが三年F組というクラスです! クラスの一人一人を見ても、それぞれに個性が強くそれでいて妙にまとまりがとれている奇妙なクラスですので、色々とおかしな事もおこしますが、持前のパワーと団結心、そして多々ある短所もいっしょに、あいかわらず面白くやることでしょう。

行事報告!

修学旅行はどーした!!

体育祭

去る五月に行なわれた'84体育祭は、どんよりとした天気のもとで始まりました。そして、「まあ、そのうちに晴れてくるという、天の神のすばらしい演出があるだろう。」と、思っているうちに体育祭は終ってしまいました。この晴れてこなかった!という天の演出は、まるで、革命がかった今年の体育祭を象徴しているかのようでした。これはちょっと否定できません。

で、では「革命がかった体育祭」とは何のことなのか。皆さんも薄々、いや絶対にしっているでしょう。それは、そう!あの**「予選会」**と**「マス・ゲーム」**が消え失せ、さらに、一時期は「騎馬戦」と「棒倒し」もなくなったということです。しかし、この二つは皆さんのアンケートにより、そう、その結果により復活し、またメインとなりました。

しかし、体育祭自体は、生徒自身による企画・実行のためか、あの背景を打ち消し、例年よりも非常に充実し、白熱していたように見えました。そして、その内容は、「二人三脚」や「障害物競争」等が、新しく取り入れられましたし、マラソンのコースが校外コースとなり、距離も長くなりました。これも革命の一部と見ることができるでしょう。

数々の競技が行なわれましたが、中でも二年生の「着せかえ競争」は勝敗が重要視されがちな体育祭の中で、そのことを忘れて熱中できたものでありました。これは、見る側も同じことであると思います。今年は、マス・ゲームの中止によって、そのような得点を重要視しない競技のおもしろさが倍増されたように感じました。

結果は、一位(優勝)が**赤組**。

それも二年連続ということで終ったのでありますが、もうそのころには「革命がかった」なんて、どうでもいいことだと感じていました。そう、「どうでもいいことだった。」と……。

輝松祭

年中行事はいろいろあれども、やっぱり文化祭が一番。なぜかいきなり九月の十四日、そうです輝松祭の前日であったのです。校舎の中を歩いていると、至る所から話し声やその他の音等が聞こえてくるのです。みんながんばって準備をしていたのです。中には、まだ完璧ではないので残れるだけ遅くまで残ってやっていた所もあったようでした。

さてさて輝松祭当日の十五日、長く感じた午前中の講演会も終わり、みんなは解放された。それぞれに自分の持ち場に行き、最期の準備に取りかかっていた。やがて学校全体が活気づき、よその学生さんなども入ってきて、あちこちで、呼び込み等の声が聞こえてくるようになった。話は変わりましておどろくべきことに、一年生はみんなどのクラスも劇だったのです。去年は展示でありましたが、今年はたいていのものは自由に選べるというのにもかかわらず劇なのです。おばけ屋敷をやりたかったクラスもあったようですけども都合上できにくくこうなったわけです。

さて、そのおばけ屋敷をやることになったのは、二年A・B組でどちらもなかなか面白く、人気があったようです。二年生の他のクラスも楽しいものばかりでした。

ところで三年生の方はというと、実にバラエティーに弾んでいて、フィーリングカップル5対5、きっさてん、うわさによりますと、三年F組ではフットルース等のビデオを上映していたそうです。

クラス以外のものに目を移すと、古本市、コンピュータ1、D・J、キカイダー'84、それに審査員特別賞をもらった生物部の研究発表の展示などなどいろいろあってとてもにぎわっていました。

各所ではにぎわっていたものの、学校全体ではなぜかいまいちという感じで、盛りあがりの精神に欠けていたような気がしました。

今年はグランドの改修工事があって対抗試合がつぶれてしまい、また、後夜祭もグランドが使えない為に、体育館でやるはめになってしまった。しかし、その体育館で、が功を奏したのか例年になくうまくいってしまったのでした。

また陰で活躍した生徒会、文化委員、企画委員、先生方の努力も忘れてはいけません。提出物がきちんと期日までに出されなかったり、貸し出したものが返ってこなかったりで、いろいろ大変だったのです。感謝！　感謝！

まあ、とにもかくにも

―やってたのしい、輝松祭！

―やらねばつまらん、輝松祭！

―参加に意義あり、輝松祭！

でした。

―体育館―

文化祭といえば、体育館はつきもの！　でも、みんな、なかなか足を運んでくれないみたい……。見に行かないと一生後悔するかもよォ―

劇なんか、場面が変わるたびに舞台が真っ暗になって、裏方が一生懸命ザワザワと大道具、小道具を移動させてるんだよネ！　それに、な、なんと、役者の人もいっしょに動かすんだよネ。死んでる人も生き返っちゃって！　思わず手伝いたくなっちゃうんだぁ……。

芸能部門三位の二Gをはじめとして、演劇部、ブラスバンド部、有志バンドなど、みんな一生懸命やってたけど、体育館の中は九月の中旬のわりには涼しくて、おまけに蚊はいるし、実際やってる方はひさんでした。

有志バンドも、みんながんばって練習したせいか、なかなかの出来ばえで、聞きに来ていた人たちも声援や紙テープをとばして、すごいもりあがりでしたョ。

―後夜祭―

今年の後夜祭は、校庭が使えなかったから体育館だったけど、とても楽しかったよネ！

あこがれの先輩とは踊れちゃうし、もしかしたらカップルができちゃったりして……。

曲は、マイムマイム・オクラホマミキサー・コロブチカ・タタロチカ・木のくつ・オスローワルツ、結構、知ってる曲が多いし「えーっ踊れない～！」なんて言ってる人、大丈夫ョ文化祭が近くなると、フォークダンスの練習ができるように体育委員さんがんばってくれるし、当日もおしえてくれたしネェーうん！

始まる時も大変だったよォ。すぐに円ができちゃって、入りたくても相手がいなくってウロウロ……〝男の子が踊ろうって誘ってくれればすぐOKなのに―女の子からなんて言えないわ〟って気持ちもわかるけど、男の子も女の子もこういう時は、積極的にいかなきゃダメョ！　だけどさあ、みんな結構のってたんじゃない?!　二時間なんて、とっても短くてあと一時間はほしいなあ……。あっという間に終わっちゃうけど、最後に〝贈る言葉〟なんて歌っちゃったりして……アンコールまでかかっちゃったんだよネェー！

とにかく最高の後夜祭でしたマル

by㋮

今年の輝松祭の感想を一言

●僕は今年の文化祭が成功したかと聞かれたら、決して成功だったとは言えないと思います。というのは一生懸命やっていた人もたくさんいたと思いますが、しらけていた人もたくさんいたと思うからです。文化祭なんか自分には関係ないと思っていたのでしょうか。輝松祭はそんなものでしょうか。これから輝松祭をどうしていくか、今一度、考え直すことが必要ではないでしょうか。

●僕たちは輝松祭と聞いた時、「よし、やってやるぞ」と思い意気込んで企画に取り組みました。一学期の終わりごろにはなかなか順調に進んでいったのですが、夏休みになってしまうと集りがわるく、また集まったとしてもみんなで自由というか勝手にしゃべりまくっていたのでした。このような調子でうまくいくのかと思っていたら案の定、あと輝松祭まで一週間ちょうどという所まで迫ってきていました。そこでようやくみんなのやる気が少しずつ出てきて、インスタントみたいになってしまったが、なんとか劇までにこぎつけたのです。僕は一人でも遊んでいるような人をなくすのが今後の輝松祭にとっての課題だと思います。

●私は今年の輝松祭はとても良かったと思います。みんなで考え、みんなで作った出しものは、点数などでは表わせないものだと思います。これからもみんなが一体となった輝松祭。そして輝松祭がもっと発展して行くことを私は望みます。

●僕は文化祭については、まあまあ良かったと思います。しかし、全員が全員楽しいわけではないんじゃないかなと感じました。僕の友達もあまり積極的に企画にとり組んでなかったので、結果はとてもつまらなかったと言っていました。やはり文化祭などは全員参加の行事なのでもっと皆が楽しい文化祭だったと言えるような物にしたいですね。

●文化祭の練習が、夏休みに重なるので練習がはかどらない事が多く苦労の連続でしたが、なんとか成功したのがとてもうれしかった。ヤッタネ!!

●皆がまとまって練習していたときは、とっても充実していました。当日は何かと緊張したけど、終わったときはホッとしました。来年はもっとおもしろくしたいなと思います。

●いろんな展示や劇を見たけど、バンドとか劇が多くて、もぎ店が少なかったのが残念だった。もっとちがったものがあれば、マンネリにならずに楽しめると思う。次は趣向をこらした文化祭になるようにガンバロウ。

●十五日のバンド「ちぇっかあず」はとっても良かったと思います。まずボーカルさんがイイ声だったし、バンドさんがうまかったのです。とにかくあの頃は、本物の人気がでてた頃だから、とてもうけてたみたい。また来年も楽しいバンドが出ればいいなあと思います。

●文化祭、最後の夜と言えばもちろんフォークダンスである。全学年の男女が入り乱れて、踊ったフォークダンスは、とても楽しかった。参加しない人の気が知れない。二時間のフォークダンスの中で、何組のカップルが誕生したことであろう。色々と踊ったが、一つの曲で長く踊れなかったのがとても残念でした。来年は、ミラーボールを使ったりして、ディスコになったらなあ〜とつくづく思っちった。おいらは!

●文化祭は楽しかった。でも校庭が使えなかったのは残念だった。対抗試合がなかったので、楽しみにしてたのにな。でもフォークダンスが体育館だったのは良かった。校庭でやるより、すこしうす暗くてムードがあったなあと思うのです。また体育館でやりたい。そして今度はもっと長くやりたいよ〜。

●文化祭。とってもとっても楽しかったな〜。バンド。劇や展示。映画にもぎ店などなど。どれをとってもほんとにすばらしい。が、しかし、なんだか学校生活の延長のような気がした。もっとお祭りらしくしたいなあ。パァーッとさわいでひたすら楽しく。時間をかけて、企画を立てて、もっと壮大なスケールで他の学校にも負けない、そんな文化祭を来年はやりたい。来年はもっと過激に、かつ華麗にしたいなあ。というわけで皆サン、来年は一生懸命がんばりませうっ!

●文化祭ではいろいろと楽しいものがあったけど、僕は後夜祭が最高だったと思います。みんなが参加できて、みんなが楽しめるからです。普段は話したことのない女の子と話したり最後のペンライトを振りながら、みんなで贈ることばを歌う。こんなに楽しんだのは体育祭以来です。来年も絶対後夜祭に参加したいと思いました。

様々な感想を聞かせていただきましたが来年はもっと良いものになってほしいものです。

（おわり）

一年遠足

五月七日のある晴れた月曜日、わたしたち一年生は、夫婦園キャンプ場へ飯ごう炊さんに出かけました。

前もってクラスでロングホームルームなどで話しあって、男女混ごうのグループ六つに分かれ、その班の中で作る物を決めるわけです。主な班は、焼き肉、焼きそば、カレーライスなどを作ることにしました。

そして当日、八時十分、新宿西口に集合。行きはどのクラスもバスの中できゃあきゃあ騒いでいたようです。

十時を過ぎてから夫婦園に到着しました。

そしていよいよ班行動が開始され、グループごとに食事を作る仕たくをしはじめました。みんな食事をつくるのに一生懸命です。かまどに火が、なかなかつかない班もあり、悪戦苦闘でした。

材料は班で分担して持ってくるのですが、材料を持ってくるの忘れた……なんて人はいなかった(?)とわたしは思います……。

でき上がりは、その班によってまちまちのようでした。みんな苦労して作ってました。でも、もしかしたら全然苦労しなかった、という班もあったかもしれません……ね。

みかけは思ったよりずっと下手くそに出来ても、みんな、「おいしーねー。」「サイコーッ。」と、お友だちとワイワイおしゃべりに花を咲かせて、にこにこ明るく食べておりました。一人でつくる料理より、やっぱりみんなでにぎやかに作るほうがおいしいんじゃないですか。

おいしいお昼を食べたあと休む間もなくおかたずけ。必死でコゲコゲの鉄板や真っ黒になった飯台と取っ組み合いをしました。片づけって、つくるより大変なんですよね。おかげで全部洗うのも一苦労。もっとも男子は川の石投げに夢中になっている人も少なくなかった様で……。

それでも男子は火つけ役をやってくれたので御苦労様！

片づけもおわり、ホッと一息つくなり記念写真をとりました。遊ぶ時間もなく、すぐに集合、帰りのバス……となってしまったけれど、苦労の多い、それでいて楽しかった一日でした。

二年生鎌倉へ行く

1984. 5. 7 (Mon.) Fine

その日、ボク達は遠足のコースとしては、ぜったいにベスト・スリーにはいるに違いない、鎌倉へ行ってきた。

この遠足は、全て班行動で行なわれた。(ただし、もちろん、コースが決められ、チェックポイントがもうけられたが……。)

コースは、A～Hの8コースに分けられ、その8コースも社寺コース・丘陵コース・海岸と社寺コースというものの三つに大きく分類された。又、班行動で行う理由は、後々にある(といっても、もう終わったが……。)修学旅行に向けて、ということらしかった。

――さて当日――

(と、書いたけども後がつづかない。だいたいかまくらに行ったことを忘れてた人間が遠足について書くなんて……。う――ん、悩んでしまう。続き、続き、続き、続きはどこだ～～あ！

あっ、そういえば、顔立ちが大仏そっくりな人がいたなあ。彼は、銭洗弁天でお金が増えるようにと、持ち金をすべて洗っていたな――あ。名前は、まあ、S君とでもしておこうと。彼はお金持ちになったかなあ。きっとなったさ。おごってもらお。ん、そうしよう。)

さて、当日は、班ごとにAM9:00～9:30までに江ノ電の藤沢駅に来て、チェックを受け、それぞれが選んだコースに散って行き、PM3:00～4:00までに鶴ケ岡八幡宮へ来るというものでした。班行動だったけど、コースを限定されたため、個人的には、つまらなかった。(けれど、解散した後はおもしろかったで――。)

まあ感想は様々だったと思うけど、みんな疲れたはずです。ねえ、疲れたよね！ だから来年は遠足の翌日は一時間遅れにすべきだと思います。

(おわび)

遠足にどこへ行ったかを忘れてた者が遠足の記事を書いてしまったことをおわびします。

「すいませんでした。」

なお、この文章を書くにあたり、「遠足のしおり」を参考にさせていただきました。

「ありがとうございました。」

三年遠足

5月7日、我々三年生は、高校生活最後の遠足に行きました。場所は、相模湖ピクニックランド。全クラスで多数決で行先を決めたのですが、東京ディズニーランドに行きたい、という意見が多かったにもかかわらず、何故か、ピクニックランドにカレーを食べに行きました。

天気は快晴。(だったと思います。なんせこれを書いている今は一月なので……)我々は、新宿からバス6台に乗りこみ一路、相模湖へ——。

バスの中は、いつもと同じ。となりの人としゃべる人、おかしを食べる人、寝てる人、etc。

そんなわけで、ピクニックランドにつきました。坂道を登ること10分ぐらい(かな?)、かまどセットのある場所に着きました。材料はすべて、あっちに用意してあって、班ごとに自分たちのかまどの所に行き、カレーと野菜サラダを作りました。味は……といっても、このメニューでは御飯を失敗しない限りは、だいたい、でき具合も味も同じなのです。

かたづけおわって、次は遊び。回数券が一人一人に渡されて、みんなで楽しく遊びました。

一番人気のあったのは、ボブスレイのように坂道をすべりおりるもの(名前を忘れた)でした。その他、サイクリング、リフト、トランポリン、パターゴルフなどもありました。

楽しかったかと聞かれれば、楽しかったとも、つまらなかったとも答えられる遠足でした。ただ『遊んできた』というだけで、(私は)特に印象に残っていないのです。「あれは、果たして、高校生の遠足と言えたのだろうか」とまじめに、真剣に考えたとすれば、小学校高学年ぐらいの遠足とも思えたでしょう。でも、たぶん、遠足なんてものを(こういう言い方はいけないと思いますが)ほとんど全員がそんなに真剣には考えないと思うので、あれはあれで良かったのかなと思い直しています。

とにかく、あの遠足で、我々の高校生活での遠足は、終わったのでした。

私としては、天気が良かったことだけが、せめてもの救いでした。何故かというと、もし雨だったら、あっちにカレーが用意してあって、ただ食べるだけということになっていたからです。

修学旅行

私たち二年生にとって、今年度最大のメイン・イベント「修学旅行」。

今年は、初の試みで、広島・瀬戸内・岡山方面へくり出しました。その報告をしたいと思います。

一日め。六時四十五分、東京駅の新幹線の各自の車両に集合。四日間の旅の第一歩。中には、早くもはしゃぎすぎて、ホームと新幹線の間のすきまに下半身がすっぽりはさまって、あわてて添乗員さんに助けられた——なんて女の子もいたりして(ふふっ。私、目撃者)。七時十二分の発車から五時間二十分。新幹線の中にいるのがあきてきたころ広島駅着。そこから各クラス、バスに乗って平和公園へ。平和公園は、原爆投下当時の爆心地なのだけど、そんな面影は原爆ドームだけ。きれいな街並や緑の公園からはとてもじゃないけど三十九年前なんて想像できない。資料館の見学、慰霊祭、被爆者の方々の慰霊碑の説明なども終え、バスに集合。約一時間かけて、今日の宿舎である「のうが高原ホテル」へ。このホテルは高い山の上にあるので、眺めは最高。絶景っ! 広島の市街はもちろんのこと、後ろにはほんのり色づいてきた山々、前は瀬戸内海とその島々。厳島神社の大きな鳥居まで見えたのにはびっくり。こーんないい景色の所に泊まれるのだから、食事がどうしょうもなく×××だなんてぜいたくは言いません。

夜、十五のグループに分かれ、「ヒロシマを語る会」の方々との交流会。その当時の話しなどを聞きました。みんなそれぞれ心の中で考えたと思うけど、やっぱり一番に、〝戦争は、決して益ではない〟と、いうこと。これは今回の修学旅行に関係なかった人にもわかってもらいたい……。そして、又、〝現在、地球上にある核兵器は決して使われることがあってはならない。〟そうも考えさせられた。

その後は、十時半の消灯まで〝自由!〟といっても、ホテルの中。女子はお風呂のお湯が止まる、なーんていうハプニングもあったっけ。そして消灯後は言わなくてもわかる。そうあの世界。しかし、あの先生方の厳しい警戒(?)のもとで夜遊びした人達、NICE・FIGHT でしたね。

んでもって、二日目です。大まかに言ってしまうと二日目は、「日本三景」の一つである宮島を見学。そして広島県より岡山県へ移りながら、瀬戸内海を観光。それから宿舎に着いて夜は講演会……。というものだったんだけど、これのほとんどが、フェリーで移動だったんです。幸い良い天気で、島が沢山ある瀬戸内海を快走(?)。さぞかし、にぎやかになるんじゃないかと思っていたら、これが大違い。みんな、船の中で荷物に囲まれて、〝雑魚寝〟なのでした。みんな死んだように寝てるんです。絶句してしまいました。本当に異様でしたよ。一日目の疲れからなのか、それとも寝溜めのつもりなのか……。昨日のあの FIGHT は何処へ行ってしまったのでしょうか?

私に言わせてもらいますと、二日目で一番良かったなー

と、思うのは、「宮島」ですね～、やっぱり……。

みなさんは宮島の「厳島神社」って知ってますか？　うーん、何て説明すればよいのか分からないけれど、大きな朱塗りの鳥居が海に立っている所。と言えばいいのでしょうか。みなさんも、一度は写真か何かで見たことはあるでしょう。あれは素晴らしかったですよ。山の緑。それに紅葉した葉の赤や黄色。海の青。そして鳥居の朱色。ホント、奇麗でしたよ。神社内も良かったし。めったに見られない不思議な風景を味わいました。広島へ行く機会があったら、寄ってみるべきですね。祭りになると、「雅楽」が奏されるそうですよ。

あと資料館で鎧とか、いろいろと見てまわったのだけれども、フェリーから降りたばかりでみんな眠そうで……、ボーッとしてましたねェ。覚えてますか？　大きな刀が、沢山展示してあったんですョ。昔の人は、あれで戦っていたんでしょうね。

そして、フェリーから降りて、今度はバスに……。しばらく乗って、やっと宿舎に着きました。けれども、ゆっくりできないまま、今度は講演会です。みんな乗り物づくめで疲れていたはずなのだけれども、講師の先生の熱心な講演に、静かに聞き入っていましたね。

ボーッとしてましたねェ。覚えてますか？　大きな刀が、沢山展示してあったんですョ。昔の人は、あれで戦っていたんでしょうね。

そして、フェリーから降りて、今度はバスに……。しばらく乗って、やっと宿舎に着きました。けれども、ゆっくりできないまま、今度は講演会です。みんな乗り物づくめで疲れていたはずなのだけれども、講師の先生の熱心な講演に、静かに聞き入っていましたね。

三日目は、「班別行動」でした。感想も人それぞれでしょうから、ここでは小豆島へ行った人の感想を載せます。

「今日は班別行動だと思うと、憂うつであった。なぜなら一日目、二日目と、バス・フェリーに乗りまくったので、正直言って三日目もフェリーに乗って、小豆島へ行くのは気がひけたのである。と思いつつ、又バスに乗り、フェリーに乗り……。そして到着してまず行った所は、「二十四の瞳」の像のある所であった。そこで写真を撮り、次に「クジャク園」に向った。クジャクは余り奇麗ではなかった。他に、フラミンゴやオウム等がいた。次には確か「オリーブ園」へ行ったはずだが……。そこはオリーブの土産品を売っているだけで、たいしたことなかった。次に「サル山の銚子渓」へ行った。ここは最高におもしろかった。最初サルなんか余りいないじゃないかと思っていたら、ドドーッと沢山いた。みんな、初めはこわがっていたが、慣れてくると案外かわいかった。頂上からの眺めも最高であった。そして、その山の下に「愛の泉」があったので思わず拝んでしまった。又、ロープウェイからの景色もよかった。

思っていたより、小豆島は面白かった。修学旅行で一番楽しかった。よい思い出になると思う。」

と、いうことでした。みなさんはいかがでしたか？　この感想を読んで「うらやましい！」と思った人もいるでしょう。

又、この日は「夜間外出」というものがありました。これを楽しみにしていた人も、多かったのではないでしょうか。私もその一人でしたが、この貴重な時間を有意義に過ごせなかった人の中の一人でもあるのです。確かに宿舎は岡山駅のすぐ近くでした。けれども時間が少なかったために、喫茶店のコーヒーを、パフェやケーキをあきらめ、結極入った所は「マクドナルド！」だったのです。何も岡山まで来て、東京にもある「マクドナルド」へ行くことはないじゃないかと思うでしょうが、あの時は本当に時間がなかったんです。そして思わず、シェイクの味に東京を思い出し、空しい気持ちで、スキップに見せかけた駆け足で、大急ぎで宿舎へ戻ったのでした。もっと時間があれば、私はこんな思いをしないで済んだのです。

四日目です。四日目の十月二十五日は修学旅行の最終日でした。ほとんどの人が夜半まで起きていたので、「あっ」という間に朝を迎えました。寝起きが悪く、げっそりとした顔で、夜ふかしなんて何のそのと元気に。それから、まだ半分寝ている様な顔で朝食をとり、出発しました。最終日はクラス別行動でした。A組とC組は、後楽園・岡山城→倉敷、B組とD組は、吉備津神社→備中国分寺→倉敷、E組は、倉敷→後楽園・岡山城、F組は、倉敷、G組は、倉敷→鷲羽山、というようにクラスでコースを決め見学しました。どこの場所もすばらしい景色だったみたいです。A～G組まで全員が行った倉敷は、楽しみにしていた人がかなり多かったのではないでしょうか？　大原美術館などは、美術選択の人にとっては大いに勉強になったみたいです。又、最終日だけあって、おみやげを選ぶのに一生懸命になっている人が多勢いました。中には、ロマンチックな街並に酔って集合時間を忘れて遅刻した人も若干ですがいました。

クラス別のコースをそれぞれ見学して、岡山駅へ集合。そして新幹線で東京へ向いました。この帰りの車内では、疲れ果てて寝てしまう人、トランプで遊ぶ人、歌をうたう人、等々様々でした。余りのにぎやかさに、一般の乗客はいささか迷惑そうでしたが……。だいたい四時間くらいたって、東京駅に到着し、ホームで流れ解散となりました。

この四日間の修学旅行は、天気に恵まれ、事故もなく、そして本当に楽しく、たくさんのことを吸収することがで

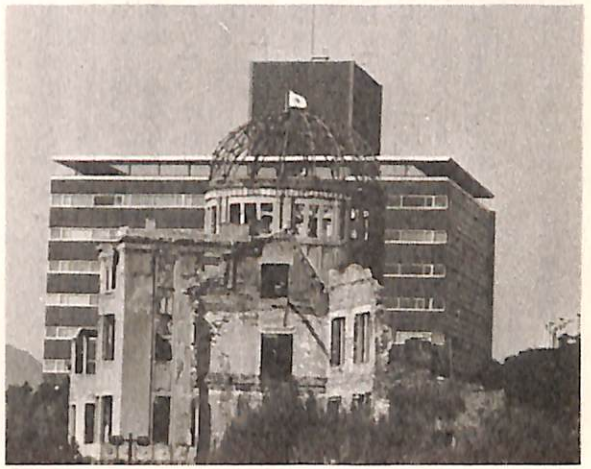
きました。みんな、それぞれ良い思い出をつくったことと、思います。

先生方や旅行委員会のみなさん、それから、「広島を語る会」の方々等大勢の方々に、お世話になりました。それらの方々に対し、感謝の念を込めて……。

みなさん、本当に

ありがとうございました。

〔おしまい！〕



音楽鑑賞

7月11日、音楽鑑賞教室が、交通の便が悪いと有名な世田谷区民会館でありました。

新堀ギターアンサンブルということでしたが、私は、はっきり言ってギターというものに興味がなかったのです。当日、いやいやながら会場へ行ったのですが……感激してしまいました！　曲ももちろん、ギターの種類や演奏の仕方に……。

ソプラノギターみたいに小さな可愛いギターや、ギタロみたいに、大きくて、立てて弾くギターなんて知らなかった。

それより何より、ボディーをびしばしひっぱたく演奏法にはびっくりした。ギターは弦で音を出すと思っていたのに……曲名は忘れてしまったけれど、太鼓みたいでなかなか楽しかった。

最後に、衣装がえをして、民族衣装やハッピを着たり、ラストの〝ドレミの歌〟では大きな声で歌って下さった演奏者の皆さん、本校ＯＧの方、

どうもありがとうございました。

うらないの好きな人類

〝甲骨文字〟といえば、亀の腹甲やけものの骨に刻まれた漢字の原型とも言える絵文字ですが、その絵文字で綴られた文章のほとんどが「卜辞」、すなわち占いに関する言説だったと言われています。

また、日本書紀には、神武天皇が御神酒の入ったかめを川に沈め、魚が浮き上がるかどうかで占いを立てる話が載っていますが、このときの魚があゆだったので、鮎は魚へんに占と書くそうです。

古代人はこのように、亀や鮎などに自分たちの未来を問いましたが、日本人や中国人、なかでも民衆の占いはどうだったでしょう。農耕民族の場合、占いの主目的はその年の豊凶です。正月ごとに行う〝年占〟は様々な方々がありますが一つに豆占は、大豆を炉端で焼き、こげた度合いで十二カ月の天候を占うものです。双六などギャンブル的要素が強いものが多いのも、年占との関連によるとされています。

その他、神社境内の石を持ち上げて判断する石占、つえ・さお・棒などを用いる投げ占なども広く行われました。〝こっくりさん〟もその歴史はかなり古いようです。

国家レベルで見ると、中国古代の殷王朝では、「易経」が成立して、筮竹を使う易占が政治の場に登場し、占い師が強力なアドバイザーとして国家の命運を決定するようになります。日本でも十世紀（平安時代）の延喜式に〝占部〟の記述があり、亀卜・易占を公に行いました。

いわゆる科学が発達してくると、それに座を奪われ、占い師たちの信用度も落ちて、彼らは暦を持って、各地方の民衆の間をまわって歩くようになります。占う対象も次第に個人的なものに移ってゆき、一種の〝エンターテイナー〟としてもてはやされるようになっていきます。これが、現代につながる売卜者の源流です。

人の運命を、生まれた日と所で決め、その日、その時、その人に向けられる星のエネルギー（〝気〟）が運命を定めるというのが占星術ですが、東洋のものと、西洋のものとでは少しずつ違っています。東洋では、木火土金水・太と月の七つの星だけを、占いの基盤としているのに対し、天文学との関わりの深い西洋のものは、星座の概念をとり入れて、天全体の星の動きをつかもうとしています。西洋のほうがマクロ的な視点に立っているようですが、一方東洋では、実在する星を哲学思想と結びつけ、人間を含む自然の理を理解しようとしているのです。

「Closure」

二人の男がたおれ、雪を真っ赤に染めた。

俺のボロ事務所に一人の男がとびこんできたのは、あれは確か、二日前であった。「頼む。」と、男は言い、そして「頼む。」という言葉でしめくくった。日当は五百ドル。内容はありきたりのもの。人にねらわれているという……。

その日から今日まで、俺は彼についてまわった。しかし彼のとなりには、決していなかった。まるで女神のように彼を、まわりを見まもっていた。用がある時は、店内の電話で呼びだしたり、ウェイターにメッセージカードを渡してもらったりした。でも、もう、その必要もない。

彼は俺に「ねらわれてる……。」と、いった。その気配は今日の夜まで見られなかった。今日の夜までは……。

俺の職業は、探偵である。探偵は、たのまれたら、とことんついていく。その依頼は完成させる。これが使命だ。もし、それができなければ……。

今日、それは日中にかぎって言えば、昨日と変りなかった。その日の16時頃、雪が降り初めた。そして、わずか二、三時間でつもった。今年の初雪だった。冬がやってきた…。

20時頃、俺と彼は向い合った電話ボックスで連絡をとりあっていた。その時、彼の所へ一人の男が近づいていった。胸元がふくらんでいた。

「やつだ！」

すぐさま外へ飛び出したが……、遅かった。二発の銃声が一つになってひびき、二人の男がたおれた。きれいな雪が赤く染まった。

即死であった……。

今、24時を回った。今日の出来事が、昨日の出来事になってしまった。

さっきも書いたように、探偵が依頼主を、いや依頼を完成させることができなかった時は、それは「やめる時」だ。そして、その時が俺にもやってきた。俺がやめたって、困るやつはいない。なぜなら、この町には、探偵が多すぎる。俺は、ピストルに一発の弾丸をいれ、そいつを窓ガラスに向かってうちこんだ。

弾痕から冷気が吹き込んできた。

冷気で白く曇った窓ガラスの横に、俺は指で書き込んだ。

Closure

と……。

その日、俺は失業した。そして町には、寒く、長い冬がやってきた。

「この町には、本当に探偵が多すぎる。俺もその中の一人であった……。本当に……、多すぎる。」

生徒会長

毎年、この季節になると、生徒会長はやたらといろんな原稿を書かされるそうです。僕もいくつかたのまれました。そしてまた、この原稿を書かされているのです。ル・クールの編集さんもたいへんだと思います。毎年毎年同じことを続けて……。

仕事の内容を書きませんと、編集さんにおこられそうですので、どんなことをやっているのか紹介します。

生徒会総務で一番大きな仕事といえば、やはり予算及び補正予算の執行でしょう。クラブや委員会の活動にはとっても重要な仕事ですから、みなさんもけっこう知ってるかもしれませんが。それと、細かい仕事では文具等の貸し出し、今年からは掃除機の貸し出しもあります。そして印刷も受け付けてます。今年は印刷用機械の改革をはかり、みなさんが利用しやすいようにしました。クラス新聞を作るなんていうのもいいんじゃないですか？

他にも体育祭、文化祭の企画や方針を立てたり、各委員会に出席して仕事の内容を調べたり、数えているとほんとうに日が暮れそうです。そんなこんなで、生徒会は毎週火曜日に集まるはずが、最近はほとんど毎日集まって、仕事仕事の毎日なのです。

と、まあこんな感じでやっているわけですが、だらしのない会長を副会長や書記・会計がガードして……？なんとかがんばってます。みなさんにはご迷惑ばかりかけていますが、どうかおゆるしください。

あまりつまらないことばかりでは、いかにも生徒会という感じですので、ウラ話を……。

生徒会室はいろんな物がかくされていて、ちょっと探すといろんな物が出てくるのです。テレコやコーヒーカップ、ボールペン5ダースやむかーしの写真やネガ、演劇部のものと思われるメイクセット、そして……。ほんとうにわけのわからないものがいろいろ出てくるのです。あなたが役員になれば、この宝さがしができますよ！

ところで後期の生徒会総務では、クリーンキャンペーンを行っています。細かいことは別にして、みんな！　もっと校内をきれいにしようよ！　お願いだから！

いろいろとごちゃついて、わかりにくい文章となってしまったことをおわびいたします。

最後に役員の紹介をさせていただきます。

副会長一―A　大沢　雄一　　一―C　石井　友規
会計一―B　奈良尾　しのぶ　一―D　水野　斉
一―D　石山　近史　　一―F　高萩　由紀夫
書記二―A　菅原　次郎　　一―E　永瀬　宏隆
会長二―B　酒井　一行

編集後記

ルクール33号
昭和60年３月
発行：東京都立松原高校　生徒会
編集：生徒会誌編集委員会
印刷：星野製版印刷株式会社

"Sing!"
ホッ、ホッ!
♪〜ラ.ラ.ラン ラ.ラン
楽しいな! よ〜 ラン.ラ.ラン.ラ.ラン!
"Dance"
る く う る